

古代チベット人の死後の世界観と葬送儀礼の仏教化

—敦煌出土『生死法物語』『置換』『神国道説示』三部作の研究—

西田 愛、今枝 由郎、熊谷 誠慈

1. はじめに

1981 年に Yoshiro Imaeda (今枝由郎) によって出版された *Histoire du cycle de la naissance et de la mort: Etude d'un texte tibétain de Touen-Houang* は、フランス高等学問研究院第四部門 (歴史・文献学)¹ の学位請求論文として提出されたものであり、敦煌出土のチベット語文献『生死法物語』を広く学界に知らしめる契機となった論考である²。

ここで紹介された『生死法物語』³とは、神々の国を舞台とし、父王であるオバル・ギェルの急逝に直面した主人公リンチェンが、父王を蘇らせるための、あるいは父王を「安らかで幸せな住処」に送り届けるための手段を求めて旅だつ長い巡礼物語である。物語の最後において、リンチェンは釈迦牟尼の元を訪れる。釈迦牟尼は、死が避けられないものであることを説き、忌むべき葬送儀礼を列挙した上で、仏頂尊勝ダラニ⁴によって安らかなところへ至ることができる⁵と説く。

この物語を正しく理解するためには、この物語をそれが成立した時代背景の中に位置付ける必要がある。チベットの古代土着宗教では死者の赴く国には 2 つあり、目指すべき地は「喜びと幸せの国 (dga' dang skyid pa'i yul)」であり、

¹ Ecole Pratique des Hautes Etudes, IV^e Section, Histoire et Philologie.

² 2006 年以降、本論考に増補改訂を加えた日本語版、英文版が出版された (今枝 2006、Imaeda 2007)。参照の便宜上、本稿で『生死法物語』に関する今枝論文を引用・言及する際は、日本語版に依ることとする。

³ 『生死法物語』を収録する敦煌文書としては、これまでに 8 写本が知られている。残念ながら完本は存在しないものの、相互に補うことによって全容を知り得る。8 写本の内訳は、Pelliot tibétain 218、219、220、366+367、IOL Tib J 99、151、345、1302 (A) (B) である (以降、Pelliot tibétain は Pt、IOL Tib J は ITJ と略す)。このうち、最もまとまっているものは、冒頭の一葉のみを欠く Pt 218 文書である (今枝 2006, pp.19-31)。

⁴ 同名の経典『仏頂尊勝陀羅尼』(北京版 No. 198、『大正蔵』No. 971) に説かれているダラニを指す。

避けなくてはならないのは「悲惨と苦しみ of 国 (nyon mongs sdug pa'i yul)」であった。一方、インド起源の仏教では、死後の世界ではなく、輪廻転生する生きものの境遇に「善趣」(天・人)と「悪趣」(地獄・餓鬼・畜生)の2つがあり⁵、人間にとって死後そのうちのどちらに生まれ変わるのかは、大きな関心事であった。輪廻という概念を持たなかった仏教伝来以前のチベット人が考える、死者の赴く「喜びと幸せの国」・「悲惨と苦しみ of 国」と、輪廻転生する境遇である「善趣」・「悪趣」とは、本質的に全く異なったものであった。しかしながら、古代チベット人が葬儀を行うに際しては、上記の対立概念は死者の行き先として同様なものとして映ったとしても決して不思議ではなく、初期仏教伝道者はその点を巧みに利用したと思われる。すなわち『生死法物語』で釈迦牟尼が「安らかで幸せな住処」と説くのは、仏教的には輪廻転生して生まれ変わった場合の「善趣」を指すのであるが、当時のチベット人にとっては、死者が目指すべき目的地としての「喜びと幸せの国」に映ったであろうし、同様に「悪趣」は「悲惨と苦しみ of 国」と理解されたであろう。それゆえに、『生死法物語』で、死者が生まれ変わって「悪趣」に落ちないための手段として釈迦牟尼が推奨する仏頂尊勝ダラニは、死者が「悲惨と苦しみ of 国」を避けるための有効な手段として受け止められたに相違ない⁶。この点で『生死法物語』は、土着宗教が深く根付いていた時代のチベットにおける、仏教伝道の初期段階を具体的に示す大変興味深い作品であると言える。しかし不可解なことに『生死法物語』中には、本来示されるべき肝心の仏頂尊勝ダラニが記されておらず、物語は単独作品としては完結しているとは言えない。

そこで今枝は、敦煌チベット語文献中に複数見いだされ、写本の成立状況や記述内容から『生死法物語』と密接に関連する『置換』、『神国道説示』と題される2作品に注目した⁷。そして、この2作品は、各々独立して完結した作品と読めなくもないが、『生死法物語』を冒頭として、次いで『置換』、そして最後に『神国道説示』の順に連続して読むことによって全体が完結する三部作構成であると考えるのが最も妥当であろうと結論した⁸。

以下に『置換』、『神国道説示』の全訳を紹介するが、その前にその内容をこ

⁵ 仏教では、輪廻の境遇は善趣(道)と悪趣(道)の2つに分けられる。悪趣に関しては地獄・餓鬼・畜生の3つで一定しているが、善趣に関しては天・人の2つとする場合と、それに(阿)修羅を加えて3つとする立場がある。『置換』第I部では、善趣(道)は2つで、全体で五趣という立場を採っており、これは根本説一切有部の律に説かれているものである(石川 2009, pp.125-126)。

⁶ 今枝 2006, p.117.

⁷ 今枝 2006, pp.119-120, p.149 n.163.

⁸ 3作品の前後関係に関する詳細は、今枝 2006, pp.108-113 を参照。

く簡単に記せば、『生死法物語』に続く『置換』では、古代宗教で実践されていた葬送儀礼の6項目が列挙され、各々が仏教的儀礼に置き換えられている。そして最後の『神国道説示』は、タイトルの通り、死後に神の国へ至る道を示した作品である。本作品では三悪趣の各々について、そこへ落ちないためのダラニが開示されており、全部で3つのダラニが登場する。しかし『生死法物語』に予告された仏頂尊勝ダラニはない。

ここで思い起こされるのは、『仏頂尊勝陀羅尼』の副題が「一切悪趣清浄」であることである。『神国道説示』に現れる3つのダラニのうちの1つは、『一切悪趣清浄タントラ』⁹に説かれているダラニであり、悪趣の清浄が主目的であるという点においては、両者は相互互換性がある。それゆえに、非常に長く、記憶して唱えるのが大変な仏頂尊勝ダラニは¹⁰、『神国道説示』においては、仏教の葬送儀礼として一層整い、タントラ化した『一切悪趣清浄タントラ』中に説かれる、10倍ほど短く、唱えるのに容易なダラニに置き換えられても教義的には全く矛盾しない¹¹。

以上の三部作のうち、『生死法物語』に関しては、上述の今枝の研究に全てのチベット語写本が影印されている。写本間に重複のある箇所については対照テキストが参照できるようになっており、全訳も提示されている。『置換』については、チベット語テキストが発表されており、すでに複数の研究者により、全訳あるいは部分訳もなされているが、決して満足のいくものではなく、未解決の問題も多々残されている。一方、『神国道説示』に関しては、ルールーによる短い研究論文があるのみで、テキスト及び全訳は未だ発表されていない¹²。

そこで本稿では、まずは『置換』と『神国道説示』の全訳を提示した上で、両文献の著作目的を考察し、三部作全体の構成を検証することにする¹³。

⁹ Skorupski 1983 に全訳がある。

¹⁰ 仏頂尊勝ダラニの全文は、今枝 2006, pp.145-146 n.147 に掲載されている。

¹¹ 今枝 2006, pp.111-113.

¹² Lalou 1938, 1949.

¹³ 翻訳に際しては、チベット文からの厳密な逐語訳ではなく、日本語として理解しやすい翻訳を心がけた。また、原文中にはないが、日本語として読みやすいように訳者が補った箇所は〔 〕内に示し、固有名詞のチベット語表記や訳者による注釈は（ ）内に示した。訳語について特に説明が必要と思われる場合や、語彙の正確な意味が把握できず訳出していない箇所については脚注に記す。

2. 『置換』翻訳¹⁴

(以下、訳文中の段落等の冒頭に示した数字は、Pt. 239 文書におけるテキストの対応箇所を表している。例えば、fol.r1-l.1 とあれば、表面第1葉の1行目を指す。)

¹⁴ 『置換』と称される文献としては、現在のところ Pt. 239 (表)、ITJ 493、ITJ 504 (表) の3写本が知られているほか、その異本と考えられるものが Pt. 37 (21 葉表～22 葉裏) に収録されている。このうち、先行研究の中心を担ってきたのは、最も整った Pt. 239 (表) 文書である。本作品について、最初に全訳を提示したスタンは、旧来の葬儀を抑止することが仏教徒である著者の目的であり、土着的葬儀を仏教に適応させた内容が Pt. 239 (表) に記されていると指摘した。しかし、本作品の各段落冒頭に見られる *bsngo ba* という語について、スタンは取り立てて論じることなく、「～に対して請願を立てる ("on prononce un voeu sur...")」と訳したのに対し、マクドナルドはこの語に新たな意味を見出した上で、本作品の目的が、古代の葬送儀礼の無効性を説き、それに類似した仏教的儀礼・概念へ「transposition (転換)」することにあると論じた。サンスクリット語の *pariṇāmana* の訳語として選ばれる *bsngo ba* は、現在では仏教用語の「回向 (ノ廻向)」を表す語として知られている。しかし、サンスクリット語本来の意が「変換」「改変」を指すことから、マクドナルドはこれを「transposition (転換)」と訳し、この考えを引き継ぐ今枝は、「置換 (substitution)」と訳した (Stein 1970, p.162, Macdonald 1971, p.374, 今枝 2006, pp.108-109)。本稿でもマクドナルド・今枝の意見に従い、本作品を『置換』と呼ぶことにする。

しかし、*bsngo ba* の訳語については異論もある。例えば、楮は、本作品における *bsngo ba* は、葬儀において死者に捧げ物を供えることを指すと注記しているし、石川はマクドナルドの見解を支持する一方で、「文意ではなく語義を問題とした場合」、訳語としては「改変」がふさわしいと述べている (楮 1990, p.59 n.2, 石川 2009, pp.120-125)。また、御牧は、内容的には「置換」という語で良いと述べてつも、この用語が「羊の置換 (*skyibs lug bsngo ba*)」のように訳されると意味が十分に伝わらず、「羊 [にかんする儀礼] の置換」と補って訳されなくてはならないと指摘する。そして、「廻向」には「人が積んだ善根 (*kuśalamūla*) を他人の為に振り向ける、方向や質を転換させる」という意味が本来あることから、この意味で「羊の廻向」という訳を採用すると説明している (御牧 2014, p.99 n.2)。

以上のように、楮を除くいずれの研究においても、どの訳語が *bsngo ba* の原義により合致するかという点を問題としつつも、文脈上は、旧習を仏教的に置き換えることを指すと理解する点ではマクドナルドの見解を受け入れている。本稿では、著者の意図を明確にする翻訳を心がけたため、訳語としても文脈上の意味が十分に理解できる「置換」を採用する。

なお、以下で『置換』に言及する際、特に断りのない場合には、Pt. 239 (表) を指すものとする。Pt. 239 (表) に対しては、Stein 1970、楮 1990、石川 2010 に全訳が発表されている。また第 IV 部については、Macdonald 1971、山口 1985、御牧 2014 に部分訳がある。なお、Stein 1970 には、Pt. 239 (表) と ITJ 504 (表) のチベット文の翻字テキストが掲載されており、石川 2010 にも、Pt. 239 (表) と ITJ 493、ITJ 504 (表) の対照テキストが収録されている。本稿では、紙幅の都合によりテキストを掲載しないが、上記先行研究のほか、古チベット語オンラインデータベース (OTDO) 上でもテキストの参照が可能である (otdo.aa-ken.jp)。以下の翻訳で、『置換』テキストについて先行研究で既に指摘される誤写や異綴り、読み替えに従う場合 (例えば *bsngo ba* が *bso ba*, *snga pa'*, *sngos pa'* と綴られるなど) については、その一々に言及しないが、本稿で新たに提案する読みがある場合は、脚注に記す。

I: (fol.r1-l.1) リングル¹⁵の置換

悲しむ〔死んだ〕親族の苦しみを取り除くために、〔遺族は葬儀の〕由来
 〔が書かれた〕絹の幡¹⁶を作って〔立て〕、〔死者のために〕絹製の中国の建物を
 模して〔リングル〕を建てる¹⁷。〔それは〕様々な葬儀の飾りと、sem shen と
 いう黒いフェルトの飾り¹⁸、良いリングルの花飾り¹⁹を備えたこの様なもので
 あった。

(fol.r1-l.3) 〔しかし今後は、これらを作る代わりに〕神の中の神である三宝に
 依拠して、〔それに用いる〕美しく高価な中国の絹を無駄にせず²⁰、布施に益
 するようになせ。〔死者を〕神の清浄な香によって清め、仏教の強力な真言
 〔を唱える〕功德によって、死者某は、解脱という素晴らしく²¹、比類ない宮
 殿が手に入る。

¹⁵ ring gur: 文字どおりには「御遺体のテント」と訳されるが、先行研究ではそれを作るために用いられる絹製品を指すと考えられている (Stein 1970, p.178 n.22、褚 1989, p.28 n.7 及び pp.30-31, n.26、石川 2010, p.57 fn.10)。

¹⁶ smrang dar: スタンや石川 (Stein 1970, p.179 n.23、石川 2010, p.57 fn.13) が指摘するように、smrang は、ボン教の専門用語としては、儀礼が成立した経緯を述べることによって、その儀礼の効力を保証する「原型の提示」("exposition of the archetype") を指す語である (Snellgrove 1967, p.256 n.9)。これを受け、御牧は本文の第 IV 部に登場する smrang に「起源神話」という訳語を当てている (御牧 2014, p.99 及び fn.4)。本稿でも、smrang は葬儀の起源や由来を語るものであると理解し、dar はそれが書かれた絹の幡であると考えた。

¹⁷ dmylg bzhag du byas pa': スタンは、"on l'a fait pour poser l'œil" と訳すが、「目を置くため」(pour poser l'œil) という訳には確信がないとみえる。一方、異本の ITJ 493 には、dmyig pa nag du byas pa とあることから、石川は dmylg を dmyigs pa (像) の異綴りと考え、「像を黒く作ったもの」と訳している (石川 2010, p.58 及び fn.14)。これに従えば、「中国の建物を模したリングルを黒く染める」という内容を指すのかもしれない。しかし、本稿では dmylg bzhag du を意味不詳とし、訳出しなかった。

¹⁸ sem shen re nag gyi rgyan: スタンは、"un ornement pour la pensée noire"、褚は「表示心情悲痛の悬挂物」と訳すが、「飾り」ないし「掛物」を修飾する内容が何を指すのかはよくわからない (Stein 1970, p.160、褚 1990, p.56)。石川は sems can gyi re kha nag po と解釈し、「有情 [の] 黒い図画の飾り」と訳す (石川 2010, p.58 fn.15)。しかし、re nag にはテントの縫製に用いられる黒色の牛毛の織物 (『藏漢』, p.2716) の意味があり、リングル (御遺体のテント) について述べる内容にはこちらの意味がより合致すると思われる。sem shen の指す内容はわからないが、re nag gyi rgyan に先行する同格名詞ではないだろうか。

¹⁹ zhugs dog: 石川の指摘に従い、me tog の敬語形であると考えた。しかし、石川は、ITJ 493 の対応箇所 ring dgun (=gur) gi bsang ba dang bzhugs don gi を採用し、「リングルの清めと御利益の飾り」と訳している (石川 2010, p.58 fn.16)。

²⁰ bzang rgya dar nor gyi dmylg chud myl gsan: dmylg の指す内容が不詳なため、訳出していない。しかし、上述のように dmyig を dmyigs pa であると考えれば、「美しく高価な中国の絹の像を無駄にせず」と理解できるかもしれない。

²¹ 'phrul: 古代の文脈では、ツェンポの持つ「超人的な力」を指す語であり、ここではその意味と仏教的な「神通力」の両方をさす役割を担っていると考えられるが、文脈上は、「比類ない宮殿」を修飾する表現であるため、「特別に優れた」「素晴らしい」といった意味であると考えた。

〔死者〕某は、万一地獄に落ちようとも、憎しみの〔満ちた〕地獄の獄卒たる羅刹（スィンポ）に捕らえられることなく、地獄の苦しみを味わう一切の衆生が、素晴らしく、偉大な比類ない宮殿に入り、あらゆる地獄の衆生が守護されますように。

死者某は、餓鬼に生まれようとも、いかなる餓鬼の敵によっても捕えられることなく、飢えと渇き〔に苦しむ〕一切の〔餓鬼道の〕衆生が守護されますように。

〔死者〕某は、愚かな²²畜生の世界に生まれようとも、いかなる畜生の敵によっても捕えられることなく、一切の〔畜生道の〕衆生が守護されますように。

死者某は、人に生まれようとも、いかなる人の敵によっても捕えられることなく、人にとっての全ての脅威から守護されますように。

〔死者〕某は、神に生まれようとも、阿修羅などの〔神の〕いかなる敵によっても捕えられることなく、神にとっての全ての脅威から守護されますように。

三界の一切の衆生が苦痛といういかなる敵によっても捕えられることなく、解脱というこの上なく偉大な宮殿に至りますように。

遺族たちも、幸せでますます良く²³なりますように。

II : (fol.r4-l.3) ウンロブ²⁴の置換

〔死者某は〕前世の業にしたがって、ある国に生まれ、肉によって繋がれ、母方の親族関係によって結ばれ、親族となった。そして、夏の植物と同じようにすくすくと育ったが²⁵、前世において殺生をした報いによって、〔夏の植物を〕短命〔にする〕霜が降り、死神²⁶によって連れ去られ、愛しい親族（遺

²² glen rgugs: glen lkugs と考えた。

²³ rjes bzang: je bzang と考え、「ますます良く」という意味に解釈した（Jäschke, pp.172-173）。

²⁴ ウンロブは葬儀の際に「死者に饞別の品として贈った品」であり、「基本的に高価な衣服や鎧」を指す（石川 2010, p.61 fn.32）。ウンロブは通常、外祖父から贈られる品であったようだ（石川 2008, pp.178-179）。

²⁵ dbyar gyl ldum bu dang 'dra bar bkod bkod pa las: bkod は 'god pa（配置する、置く）の完了形であり、直訳すれば「夏の植物と同じように置いておいたが」となる。「夏の植物」は、古チベット語文献の中では、「何もしなくとも育つ」「何もしなくとも成果が得られる」という例えに用いられている（例えば、dbyar gyl ldum bu dang mtshungste nor ma btsal bar gyl na myed/夏の植物と同じく、財は求めずとも手に入る, ITJ 740 ll.7-8）。本稿では、「夏の植物のように放っておいたが、すくすく育った」ことを意味すると考えた。

²⁶ myl rtag pa'I srIn: 文字通りには「無常を司る羅刹」と訳せるが、ここで言う無常とは、すなわち

族) たちと離別した。

悲しむ [死んだ] 親族 [に対する餞別] は、勇敢なもの (chu gang) と旅立ちの必需品 (?) (khrel ltas) をもって証とする²⁷。家畜の群れと宝物から選び出し [たもの] を²⁸、[それぞれ] 勇敢なものと旅立ちの必需品として捧げる²⁹。

[このように、これまでは] 宝物と家畜の群れから案配し、遺族 [から] の餞別の品³⁰たる布施として贈っていた [のである]。

(fol.r5-l.3) [しかし、今後は] 仏教の三宝に依拠して、良い誓願 [をたて]、仏教の善き真言 [を唱える] 功德によって、寿命の尽きた [死者] 某には、[死者を] 慈しむ親族の [捧げる] 甲冑と素晴らしい鎧³¹が手に入る。

寿命の尽きた [死者] 某は、たとえどこに生まれようとも、鞭を持つ魔物や³²煩悩という凶器などによって捕らえられることなく、死神をはじめとする三界のいかなる敵にも打ち勝ちますように。

死が必ず訪れることを指すことから、死を司る存在と理解し、「死神」と訳した。

²⁷ khrel ltas gyis nas mtshan ma: khrel ltas をスタンは modestie [ou prudence] と、石川は、「羞恥」と考える。なお、石川は、khrel ltas bgyis pa'i mtshan ma と理解し、「羞恥を起こしました (?) 証」と訳す (Stein 1970, p.161、石川 2010, p.61 及び fn.35)。Jäschke は khrel ltas、khrel ltos を "dread of wicked actions" と説明している (Jäschke, p.52)。khrel ltas の語義は、現時点では確証が持てず、文脈から「旅立ちの必需品」としておいたが、今後の検証が必要である。

²⁸ 「家畜の群れから連れ出したもの (phyugs du kyu nas drangs = phyugs kyu nas drangs)」が前出の「勇敢なもの (chu gang)」に相当し、「宝物から取り出したもの (nor gyi dbylg las phyung)」が「旅立ちの必需品 (khrel ltas)」に当たると考えたため、訳文の順序を入れ替えた。

²⁹ bsrId pa: bsrils とみて、「餞別の品」を指す sris と関わりのある語と考えた。

³⁰ srIs: 王家の葬儀に関する Pt. 1042 文書の中にも gnyen 'o byams kyi sris という表現が3度登場する。ラルーは sris を ris (部分) と解釈し、"la part des parents et amis" と訳している (Lalou 1952, p.349 fn.7)。なお、石川は、sris を「供養品」と考える褚の説に従い、Pt. 1042 の gnyen 'o byams kyi sris が、葬列中の「犠牲動物一段の中央に配され」、葬儀の先例を記す Pt. 1149 文書にも同じ表現が見られることから、sris は「特に家畜を指して用いられる」「供養品」であり、「基本的に、屠られ、調理され、供えられる犠牲獣のことを言う」と述べる (褚 1990, pp.63-64、石川 2010, p.62 fn.38)。本稿でも、褚、石川の解釈を採用し、特に死者との別れのある葬儀で送られる品を指すことを考慮して「餞別の品」と訳した。

³¹ 「親族の [捧げる] 甲冑と素晴らしい鎧」は、仏教以前の葬儀で死者に贈られるべき品であろうが、三法に依拠し、良い誓願をたて、真言を唱えることにより、それらの品に相当する仏教的加護が自ずと手に入ることを説いていると思われる。

³² lcag gshed: lcag は「鞭」や「杖」を指し、lcag shed で「馬鞭」を意味する (『藏漢』, p.758)。ここでは、獄卒のように鞭を持つ魔物の姿を描写した表現と理解した。

III: (fol.r6-l.2) 穀物燠蒸 [による] 置換³³

[以前は] 死者を愛しむ遺族から [贈られる死者の] 愛好する餞別の品と、
[死者を] 愛しむ兄弟姉妹 [から] の餞別の品と・・・³⁴

(以下、旧来の葬儀の内容が続いていたはずであるが、本文中に脱落があるため、次の内容との間に文脈上の飛躍がある。)

(fol.r6-l.3) [しかし、今後は] 清浄な食べ物を用意して、仏教の強力な真言を唱え、飢えた餓鬼たちや、一切の貧窮した有情に対して布施をするという功德によって、[死者] 某には、神饌と甘露を口に作る力が手に入る。

有情への虚空を満たすほどの布施により、死者某とあらゆる衆生が、三昧という食事や一切の神饌をはじめとした様々な恵みが得られますように。

穀物燠蒸などによって、[従来(の)の儀礼を] 正しく置き換えることにより、我々遺族たちと、無数の一切の衆生が完全な安寧を得られますように。

IV: (fol.r7-l.4) キブルク³⁵の置換

黒い (／旧来の、悪なる) 人の經典や、黒い (／旧来の、悪なる) 葬儀の流儀、ボンの供物の由来譚³⁶、魔物 (デー) の薫香供物³⁷の先例譚³⁸によれば、羊

³³ 本段落のタイトルには「穀物燠蒸の置換 (phru sangs bsnga pa)」とあり、マクドナルドは、第 I・II 部同様、穀物燠蒸 (phru sangs) が置換されるべき旧習であると考えている (Macdonald 1971, p.374)。しかし、石川が指摘するように、穀物燠蒸は仏教徒が奨励する供儀であって、ここでは穀物燠蒸「への」あるいは穀物燠蒸「による」置換と考えなければ矛盾が生じる (石川 2010, p.62 fn.43)。実際に、本段落末尾には「穀物燠蒸によって正しく置き換えることにより (phru sangs las stsogs pas legs par sngo pas)」と、穀物燠蒸が置き換える側の行為であることが明示されている。一方、本文冒頭には、「死者を慈しむ親族から [贈られる死者の] 愛好する餞別の品と [死者を] 愛しむ兄弟姉妹 [からの] 餞別の品と (gnye sdug ci byams pa 'l dga' srts dang // bu srŋg brtse ba 'l sris dang //)」とあり、旧来の葬儀では、各種の餞別の品が親族から死者に捧げられていたことがわかる。従って、本段落のタイトルをより明確に示せば、「餞別の品の穀物燠蒸による置換 (sris 'phru sangs kyi bsngo ba)」となろう。

³⁴ 冒頭の餞別の品の記述には、「兄弟姉妹 [から] の餞別の品と (bu srŋg brtse ba 'l sris dang //)」と、文末に並列の接続詞がみえる。しかし、それに続く内容は「清浄な食べ物 (kha bzas gtsang ma)」、「強力な真言 (lha sngags gnyan po)」と、明らかに仏教的供物、行為について述べており、前文と並列の関係にはない。従って、これらの間には文脈上の飛躍があると考えざるを得ず「兄弟姉妹 [から] の餞別の品と」の後には、本来旧習についての描写が続いていたが、何らかの理由、例えば書写生のミスなどによりそれらの記述が脱落したものと思われる。

³⁵ キブルクは語義に照らして「避難所たる羊」や「守り神の羊」などと訳されている (Stein 1970, p.162, 御牧 2014, p.99)。

³⁶ bon yas 'dod smrang: 異本の ITJ 504 では、bon dpags 'dod kyi smrang と記されることから、石川は yas, dpags を dpag yas (無量) と同義と解釈し、全体を「無量を望むボン [ボ] の伝承」と訳す (石川 2010, p.63 fn.50)。しかし、御牧によれば、後代のボン教の儀礼において用いられる「供物

は人よりも賢く、羊は人よりも力強いと言われるが、一切の有情は、各々の行いによって導かれるのである³⁹。[したがって、] 羊が道案内をする必要はない。羊が岩を砕く必要はない。羊に道案内はできない。羊に考えをめぐらすことは出来ない。手のない者が矢を射ることが出来ない [のと同じである]。

(folr8-l4) 理にかなったことを信じて、[今後は] 白い (／仏教の、善い) 經典や、白い人 (／仏教徒、善人) の流儀、白い (／仏教の、善い) 葬儀の法、白い神の教え (／仏教の教え) に依拠して、冷たい鉄の手を [羊の] 体内に突き刺さず、[羊の] 体内の熱い血を外へ流さず、[羊の] 五臓を掌で打ち付けず⁴⁰、[羊の] 皮を肩に掛けず、[羊の] 白い骨を石皿で打ち砕かず、[羊の] 赤い肉を鍋で煮ず、[獣とは違う] 高尚な人の流儀に従って、魔物 (デー) の道を行わず、羅刹の行いをしないように。

[そうすれば、] 生きる [羊の] 目は生き生きと、生きる [羊の] 耳は敏捷で⁴¹、生きる [羊の] 骨は [バラバラにならずに] 揃っている⁴²。

(yas stag) は yas stags、yas btags、ya stag、yas rtags と書かれ たり、「また単に yas と記され」、「儀式の対象となる神格または鬼神に対する供物の総称で」ある (御牧 2014, p.11 fn.30)。本稿では、御牧に準じて yas を「供物」と考え、'dod については、gdod ma (始まりの、最初の) と理解し、'dod smrang は gdod (kyi) smrang、つづく 'dod kyI rabs は gdod kyI rabs であると考えた。

³⁷ gsur: burnt offerings (Rangjung Yeshe)。

³⁸ ドットソンによれば、smrang、rabs、lo rgyus は、危機を解決するという基本的な筋によって儀礼の起源を語る点で、同種の「前例物語」("antecedent tale") を指す (Dotson 2016, pp.78-79)。

³⁹ 各人のカルマによって、死後の道、すなわち輪廻の転生先が決定されるという仏教の教えを言ったものである。

⁴⁰ don snying smad lnga: 先行研究では、snying を snying po (心臓) と理解するが、"le coeur et les cinq viscères" (Stein 1970, p.163)、"le coeur et les quatre (autre viscères)" (Macdonald 1971, p.375)、「心臓五腑」(山口 1985, p.549)、「五臓」(石川 2010, p.64) と、五臓に心臓を含めるか否かに見解の相違がみられる。これに対して御牧は、snying を snying po (心臓) と取るのではなく、smad (副次的な) との対比から「主要な」の意に解し、「主要な或いは副次的な五つの臓器」という理解を提案している (御牧 2014, p.101 fn.9)。本稿では、この意見に従い、主たる臓器である心臓を含めた「五臓」と考えることにする。心臓五腑 (山口)、五臓 [六] 腑 (御牧) はともに日本語としては通りがよいが、チベット文には「腑」にあたる言葉・概念がない。

⁴¹ dab dab: 'dab が「葉」、「花びら」「羽」に由来する擬態語であろうと推測し、石川は「パタパタ」と訳す。御牧の訳語も「パタパタ」であり、山口は「タバタバした」をあてる (石川 2011, p.65 fn.58、御牧 2014, p.103、山口 1985, p.549)。スタン、褚は「素早く動く様子」を表していると考え、「bien prompte」(Stein 1970, p.163)、「扇動」(褚 1990, p.57) と訳している。本稿では、thab thab が、「flapping noise」(James Valby) を表すことから、「羊の耳がパタパタと動く」という表現によって、小さな音も「敏捷に」聞きつけることを言ったものと理解した。

⁴² kyil kyil: スタンは、「bien au complet」、褚は「屈伸自在」と訳す (Stein 1970, p.163、褚 1990, p.57)。石川は、kyil le (ぐるぐる) との関連から、「丸い状態を表す語が完全な欠けることのない様を示すために使われた」と考えて「満々」と訳している (石川 2010, p.65 fn.59)。山口の「よくめぐる骨の状態で」という訳も同案から導かれたものと思われる (山口 1985, p.549)。御牧は、文脈から擬態語と捉え、「パキパキ」という訳語をあてている (御牧 2014, p.103)。本稿では、「群れる」

神聖な草原で⁴³、[羊] 自ら牧草を食べさせておけ。

[死者を] 仏教の清浄な香によって清め、仏教の強力な真言を唱える功德によって、[死者] 某は、たとえどこに生まれようとも、凶器など [によって被る] 一切の苦しみから逃れ、生、老の苦悩がない永久不変の身体が手に入りますように。

キブルクを正しく [家畜として] 置いておくことにより、遺族たちも、ますます良く、幸福になりますように。

V: (fol.r10-l3) 馬の置換

[従来の葬儀では馬を供儀に利用していた。しかし、馬に関しては仏教説話がある。それは、] 次のようである⁴⁴。

むかし、[次のような] 素晴らしいことが起こった。

シンハラ王国より [出発して]、海の只中に乗組員を従えた頭領が船に乗っておられたところ、恐ろしい夜叉である羅刹女たちに捕まった。[船乗りたちは] 燃える鉄の城の中に入れられて、食べられるところであった。しかし、比類なき大慈悲の観音菩薩が、救いなく怯えるその頭領を目にして、恐れから救い、苦しみから解放するための方便として馬の王に姿を変えた。それは、悲心を備えた全知 [の] バラハ [であった]。

[バラハは] 天を鳥のように、[それは、] 水鳥と同じように [飛べるのであ

「集まる」を表す 'khyil' に由来する擬態語であると考え、「骨がビッシリと集まっている」様子を表し、羊を殺さずに生かしておけば、「骨がバラバラにならず揃っている」ことを述べたものと理解した。

⁴³ spang snar po: spang は「草地」「芝」を表し、snar は「白」「薄紅色」を表すため、石川は「薄赤い原」と訳している。他の研究では、特に訳注はつけられず、「une belle prairie」(Stein 1970, p.164)、「肥美草地」(楮 1990, p.57)、「草なびく原」(山口 1985, pp.549-550)、「広々とした草原」(御牧 2014, p.103)と訳されている。しかし、古チベット語文献中では spang snar は、「神聖な草地」を表し、動物が草を喰む場であり、狩りの場でもある (Dotoson 2013, p.63 fn.7)。

⁴⁴ 第 III 部の穀物燻蒸の場合と同じく、ここでも本来記述されるべき旧習への言及が脱落しているものと思われる。本段落には、「次のようである (dl lta ste)」という冒頭の文言以下、観音信仰を説くインドの経典『カーランダ・ヴェーハ・スートラ』に収録される観音菩薩の化身たる馬王の物語が抄録されている。『カーランダ・ヴェーハ・スートラ』は『仏説大乘莊嚴宝王經』(『大正蔵』Vol.20, No.1050, 47a1-64a12) として漢訳されているほか、チベット語にも翻訳されている (Phags pa za ma tog bkod pa zhes bya ba theg pa chen po'i mdo, 北京版 No.784, Vol.30, chu 224a7-274b4)。チベット本は『デンカルマ目録』にも記載されており、9 世紀初頭には翻訳されていたことがわかる (No.114, Lalou 1953, p.322)。

また、本稿では記述が欠けているが、古代チベットの葬儀において、馬が供儀に利用されていたことは、Pt. 1136 や ITJ 731 などに犠牲の馬が死者の乗物として登場し、死者を目的地の地へ運ぶ役割を果たしていたことから証左される (Stein 1971, pp.485-491、山口 1985, pp.551-554)。

る]。恐れを知らず、力強く⁴⁵、美德の整った [バラハが]、9 層からなる鉄の城で、金の砂の上に転がり、身体を震わせて、[城] 中に声を満たして [こう言った]。「助けなく、怯える [状態から] 解き放たれたい者はだれであろうと怯えずに、固い決心によって私に乗ればどうか」。頭領一同は、その声を耳にして、たいそう喜び、全知の馬に乗り、海を超え、その恐れから解放された。至高の菩提心を起こし、[船乗りたちは] 永久不変の幸福 [へと] 解き放たれた、という [話は] 以上の様であった。

(fol.r12-l4) 現状は、[この死者も] 人の [善] 業が尽きてしまって、本人は悪魔 (ドゥー) に捕えられ、若くして死に至ったのである。[それは] 草の穂が、早くに枯れる [ようなものであって]、救いがなく、長く苦しみに喘いでいる。それを考慮して⁴⁶、[今後は] 血統や名 [のある] 優れたこの天馬も [これまでのような生け贄にはせず] ⁴⁷、最高の馬である全知 [の] バラハのように、世々代々まで、長く [生きる] 家畜の福分として [殺さず、今後はバ

⁴⁵ j'igs myed mthur ltan (=ldan): スタンは、mthur を「端綱」「手綱」「おもがい」を指す語と考え、"bride l'absence de carainte"と訳し、褚、石川もそれを継承して「无畏轡頭」、「恐れなく面懸を付け」と訳す (褚 1990, p.58、石川 2010, p.66)。本稿では、mthur を mthu (力、力強さ) に助辞 (-r) がついたものと理解し、mthu dang ldan (力強さを備えた) と同義であると考えた。第 III 部 (7-4) にも bde legs phun gsum tshogs par ldan bar gyur clg (完全な安寧を得られますように) と、同じ用例が見られる。

⁴⁶ yun du phongs pa la zhon bar / don du bsam nas: don du bsam nas の意味は不詳だが、文脈から判断して、生け贄を捧げても死者が苦しんでいることを考慮すればやはり生け贄を捧げることが無意味である、ということを示すと考えた。

⁴⁷ do ma rus dang myIng / mam rta 'dī yang: do ma は、王家の葬儀に関する Pt. 1042 文書にも登場し rta do ma、g.yag do ma 等、特に葬儀に用いられる「良い種、良い血筋」の馬やヤクなどの犠牲獣を指すようである (Lalou 1952, p.349 n.4、石川 2010, p.67 fn.78)。本段落は、馬について述べていることから、do ma rus dang myIng を「血統や名 [のある] 良い馬」と訳した。mam rta もまた Pt. 1042 文書中に snam rta、nam rta、mam rta の形で登場し、ラルーは翻訳中では "snam-rta" と訳出しないが、Snam-nam (サマルカンド?) の名馬を指すのかもしれないと注記している (Lalou 1952, p.349 及び fn.2)。スタンは、ラルーに従い、"le cheval excellent (do-ma) de [tel] clan (rus) et de [tel] nom (myiñ), et aussi les chevaux de rNam (mam-rta=nam, gnam)" と mam を固有名詞と捉えているようである。(Stein 1970, p.164 及び pp.183-184 n.47)。

一方、褚は mam を snom (嗅ぐ) と関連付け、さらには『十萬龍經』中のボン教の葬送儀礼に、dri bya、dri rta、dri lug、dri g.yag 等、各種動物の前に dri (=香り、臭い) のついた語が見られることと合わせて、mam rta を体に香料を塗りつけた「香馬」と考え、「以这匹具有宝马 血统名号的香马」と訳す (褚 1990, p.58 及び n.29)。石川は、褚の説に言及しつつも、翻訳中では、do ma を「トマ」、mam rta を「ナムタ」と固有名詞のように扱う点で、山口に準じているようである。(「氏と名を持つ名馬 do ma ナム馬 mam rta も」山口 1985, p.550、「トマ姓名 [某々]、ナムタ某も」石川 2010, p.67)。

このように、do ma、mam rta 共に、特に優れた犠牲獣を指すのに用いられた専門用語であると思われるが、本稿では、日本語として理解できるように「優れた馬」、「天馬」と訳しておく。

ラハへの信仰に] 置き換えるのである⁴⁸。

三宝の慈悲と、大小を問わず[善] 行を实践する力によって[得られる]、最高の馬たるお前(バラハ)の功德は、以上のものであった。[すなわちバラハの] 御意は成就し、[人々は] あらゆる恐れから救われた。

なんであれ、身体に[生える] 毛が数えきれないのと同じほど[豊かな] 家畜と財産[に恵まれるという] 幸福を享受できますように。

恐れから迅速に救われ、一切の化生、畜生、悪趣が解放され、十方の仏国土へ思いのままに至り、誤ることなく、遮られることもない神変の目によって、聖者の神変を数えきれないほど目にすることができますように。

[何ひとつ] 聞こえないもののない仏の神変の耳で⁴⁹、善なる仏法を余すことなく耳にできますように。

あなたの光り輝く明瞭な声を聞いて、亡くなった家族や友人全てに会えますように。

美しさと力が揃った[あなた]によって、永遠の喜びの地へ至れますように。

このように、大いなる祈願⁵⁰をたてる力によって、死者も天界たる解脱の地に至れますように。

喪主である遺族たちも、ますます幸せで良くなりますように。

VI: (folr15-12) 親族からの餞別の品であるヤクの置換

鋭い角は巧みで⁵¹、身体は輝きを放って美しく、下半身のずっしりした野生ヤク⁵²のようなこれを、黒い(／旧来の、悪なる)葬儀での、魔物(デー)

⁴⁸ これまでみてきたように、本作品は、旧来の葬儀の方法を仏教的要素に置換するよう説く文献である。したがって、ここでも、馬の供儀をやめて長く家畜として飼いつけることを勧めるのと同時に、馬の供儀を馬頭観音(バラハ)への信仰に置き換えることも示唆されていると理解した。

⁴⁹ *sangs rgyas 'phrul gyl ma ba thos myed pas*: 先行研究では、いずれも、*thos* (聞こえる、耳にする)の前に否定辞(*ma/myi*)を補い、*ma ba myi (/ma) thos myed* として理解し、"Qu [comme] les oreilles miraculeuses du Buddha qui entendent tout" (Stein 1970, p.165)、"佛所幻变的无所不闻的耳朵"(褚 1990, p.58)、「聞こえ[ないこと]のない仏の魔法の耳により」(石川 2010, p.68 fn.85)と訳している。本稿でもこれらに従い、否定辞を補って考えた。

⁵⁰ 馬の供儀をバラハの信仰に置き換えることにより、シンハラ船乗りたちのように救われることを述べた後、「なんであれ、身体に[生える]毛が」以降に述べられる5つの祈願を指している。これらは死者自身がたてるべき祈願であろう。

⁵¹ *thab ni ru mo: thab* は (17-1) と同様に、*thab la mkhas pa* を指すと考えた。

⁵² *'brong stings chen*: 語義は明らかではないが、スタン、褚は *stings chen* を「力強い」、「威厳がある」の意で捉え、"le grand yak sauvage 《grande force》"、「威严的野牦」と訳す(Stein 1870, p.165、褚 1990, p.58 及び pp.65-66 n.33)。石川は、*sdings* (高台)の *chen po* (大きな)、「すなわち、大きく揺るぎない優れた野ヤク」と説明するが、翻訳中では「ティンチェン」と、固有名詞のように訳

〔の役割である冥界への〕先導としてきた。

(fol.r15-l.4) [今後は、] こうした羅刹の悪なる教えの全てを、悪なる教えとして放棄し、身体の汚れと同様に洗い清め、白い（／善い）仏教の経典や吉祥なる善い主に依拠して、悪に思いを馳せず、[生け贄とするためにヤクに] 矢を射ず、槍を投げず、[ヤクの] 心臓の熱い血を口へ吹き出させず、[ヤクの] 五臓を掌で掴まず、[ヤクの] 赤い舌を顎へ⁵³抜き取るな。[その代わりに] 広大な天の谷で⁵⁴草の穂を食べさせて寛がせよ。

家畜にひどい扱いをしなかった報いとして、死者某については、たとえどこに生まれようとも、巧みな鋭い角 [を持ち]、決して恐れることのない、勇敢で福德の大きな、身体の美しいヤクと同様の [役目を果たす] 武器（／仏教的な加護）⁵⁵が手に入りますように。

している。しかし、*ring pa* には、「根底」「下部」の意味があり、*ka ring*（柱脚）や *rkang pa'i ring pa*（踵）などに用いられる。そこで本稿では、*'brong ring chen* と考え、「下半身のずっしりした野生ヤク」を指すものと理解した。

⁵³ *mkhal du*: 石川に準じて *mgal du*（顎へ）と考えた（石川 2010, p.69 及び fn.92）。

⁵⁴ *mkha' lung g.yang par*: スタンは "dans les larges vallées...", "les ravins et les vallées... (d'armoise?)" という訳を提示している（Stein 1970, p.166 及び pp.184-185 n.52）。石川は、スタンの *g.yang sar*（峡谷で、崖で）を採用しつつ、前半部は *mkha'*（空）と *rlung*（風）の複合語であると考えて「中空」と理解し、「中空 [の] 崖で」と訳す（石川 2010, p.69 fn.93）。本稿では、*g.yang pa* を *yang pa*（広い）と考えて、「広大な天の谷で」と訳した。この際、「天」というのは、「天に近い高地」を指すものと考えられる。

⁵⁵ *'jigs pa myed pa'l yag (=g.yag) snylng dpa' dang // bsod mam (=nams) chen pa yag (=g.yag) lus sdug pa dang 'dra ba 'l go ca*: 石川の訳では、*'jigs pa myed pa'l yag (=g.yag) gi snylng dpa' dang*（「恐れることのないヤク [の] 勇氣と」）と *yag (=g.yag)* の後に属格助辞を補って考え、*bsod mam (=nams)* 以下の後半を「美しいヤクの身体とに似た大福德の鎧」と理解している。したがって、石川は、鋭い角 (*ru mon po*)、ヤク [の] 勇氣 (*g.yag snylng dpa'*)、鎧 (*go ca*) を同格と捉え、これら 3 つが得られるように祈願するものと理解しているようである（石川 2010, p.69）。この訳は山口訳と概ね一致するが、山口は *go ca* を「地位」と訳している（山口 1985, p.551）。しかし本稿では、巧みな鋭い角 [を持つ]、決して恐れることのない、勇敢で福德の大きな、身体の美しい、は全てヤクを形容する表現であり、そのようなヤクと同様の役目を果たす武器、すなわち仏教的な加護が手に入るように祈願していると考えた。

3. 『神国道説示』 翻訳⁵⁶

I: [序文]

(fol.v1-l.1) 次に、死者の道を示す（／『神国道説示』）。

無上の不可思議な智恵〔と〕神の清浄な目を備える一切の仏陀世尊よ、思し召してください。

一切の有情を、一人子のように均く加護する菩薩、大菩薩たちよ、思し召し下さい。

正しい智恵を持ち、三界のあらゆる煩悩を根本から断ち切り、2つの偏り（二辺）⁵⁷から解き放たれた高位に達した聖者たる阿羅漢たちよ、思し召し下さい。

II: [死後の心得]

(fol.v2-l.4) 寿命の尽きた汝よ、聞け。

寿命の尽きた汝に、全世界のあらゆるものの本質、〔つまり〕突然の無常の時がおとずれた。かりそめの5つの集合体（／五蘊）が崩れた。

この世界から彼岸へと向う〔に際しては、〕偉大な加護がなされる時がおとずれる。供もおらず、〔たった〕一人で休む所もない土地では、衆生の守護者および帰依所としては、仏と、大菩薩と、聖者たる阿羅漢よりも偉大なものは他にいない。

それ故、寿命の尽きた汝は、心を迷わすことなく、悪い考えを起こさず、いかなる時にも三宝を心に浮かべ、〔三〕宝に従い⁵⁸、他のいかなるものに対しても思いを馳せず、心を寄せるな⁵⁹。

III: [輪廻について]

(fol.v4-l.4) また、寿命の尽きた汝よ、聞け。

三界の監獄であるこの〔世〕において、かりそめの身体を受けて生まれるい

⁵⁶ 『神国道説示』としては、これまでのところ Pt. 239（裏）、Pt. 37（8葉裏～17葉表）、Pt. 367（裏）+Pt. 366（裏）、ITJ 151（裏）の4本が知られている。このうち、Pt. 239の表面には『置換』が、Pt. 367+Pt. 366とITJ 151の表面には『生死法物語』が記されている。Pt. 37は、テーマに関連が窺える6作品を抄録した冊子本で、中には『置換』の異本と考えられる作品も収録されている。各写本の表裏については、『生死法物語』に続いて『置換』、そして最後に『神国道説示』が記されたと考え、その順に表裏を決定した（今枝2006, pp.109-110）。

⁵⁷ cha gnyis は、mtha' gnyis に類する意味であると考えた。

⁵⁸ phyogs: “to turn, evidently attached to, to adhere to” (Jäschke, p.353) の意味を採用し、「従い」と訳した。

⁵⁹ yld kyl lam ma byed と sems kyl srang ma dod は、類似の表現による言い換えであろう。

かなる者も、最後に死から解き放たれる者は一人もない。

ある生から次の生へと流転する生死の道がそのように惨めなものであるのだから、[それを] 心に留めておけ。

IV: [悪趣に落ちない心得]

IV-1: [地獄道について]

(fol.v5-l.3) この世界の 8 万由旬の下には、大奈落の地があり、[そこでは] 鉄の大地が燃えている。その上では、燃える鉄の家屋の中で、多くの強力な羅刹(ラクシャ)によって[衆生が] 何十万回も煮られ、焼かれ、切断され、切り刻まれるなどしている。[衆生は] 苦しみに耐えられず、至る所で大きな叫びをあげ、すすり泣いている。このような奈落と言う場所があるのだから、寿命の尽きた汝よ、その道に落ちないように大いに用心せよ。

万一、そこへ落ちる恐れ[があれ]ば、その大奈落から一切を救済する者⁶⁰、[すなわち] 聖観世音菩薩という方がいるのだから、その御名を心に留めておけ。

次の誓願の言葉と真言を唱え、加護を願え。そうすれば、その悪なる地(大奈落)より解放されるだろう。

完全なる慈悲によって、最上の大菩提を習得した者、[それは] 全ての誤りから離れた最上の教えを大梵天の[ように美しい] 声でお説きになる者、[すなわち、その] 御名を耳にすれ[ば]、苦しみ、怒りも⁶¹消え去る唯一の守護者たる、かの観世音菩薩による加護をお願い申し上げます。

オーム フリー フン パドマ プリヤ スヴァーハー

IV-2: [餓鬼道について]

(fol.v8-l.2) 寿命の尽きた汝よ、聞け。

また、この世界から 500 由旬の下には、餓鬼の世界というものが[がある。そこでは] この上ない飢えと寒さによって苦しむ衆生が、何十万年もの間、たった一滴の唾液が垂れるほどの[わずかな] 食べ物の分け前もなく、身には衣服を纏わずに[いる]。空からは鉄の硬い雹が降り、10 億年の間、嘆き声を

⁶⁰ chang kyur skyob pa: chang kyur は、chang kyu 「会」、「群」、「団体」(『藏漢』p.782) に助辞(-r) がついた形、すなわち「団体として」「まとめて」を表す(Li and Coblin 1987, p.288)。ここでは、「全員」「一切」「誰であろうとみな」を意味すると考えた。

⁶¹ zhe mdzad: 語義は明確ではないが、文脈上は先行する「苦しみ」stug sngal (=sdug bsngal)と並列関係にある名詞であると考えられるため、「怒り」zhe sdang に類する語であると考えた。

あげている。このような奈落という場所⁶²があるのだから、そこへ行かないように寿命の尽きた汝は、大いに注意せよ。

そこへ落ちる恐れ〔があれ〕ば、その餓鬼道〔から〕一切を救済する者、〔すなわち〕虚空蔵大菩薩という方がいるのだから、その吉祥なる善師を心に留めておけ。

次の誓願の言葉と真言の真髓を唱え、加護を願えば、かの苦しみの地（餓鬼道）より解放されるだろう。

福德と知恵の蓄積によって吉祥なるお体にお生まれになり、虚空蔵三昧の実践を習得した者、〔それは〕飢えと寒さと貧しさ〔に苦しむ〕餓鬼を救済する者、〔すなわち〕守護者たる虚空蔵〔大菩薩〕による加護をお願い申し上げます。

オーム ガガナ サンババ ザホ ダハサ

IV-3: 〔畜生道について〕

(fol.v11-l.1) 寿命の尽きた汝よ、聞け。

大海と四大洲と大鉄圀山の間のある場所などに、甚だ愚かで蒙昧な善悪の動物、〔すなわち〕畜生の場所があるのだから、その悪道にも落ちず、〔そこへ〕生まれないように大いに注意せよ。

万一、そこへ落ちる恐れ〔があれ〕ば、その畜生道〔から〕一切を救済する悪趣清浄菩薩という方がいるのだから、その吉祥なる善師を常に心に留めておけ。

次の誓願の言葉と真言を唱え、加護を願えば、そこ（畜生道）から解放されるだろう。

真如の力を完成させたことにより、全世界を照らす知恵の灯によって、迷える畜生道から有情を解放する者、〔すなわち〕守護者たる悪趣清浄〔菩薩〕による加護をお願い申し上げます。

⁶² 文脈上は餓鬼道を意味するが、ここでは奈落という語によって広く苦しみの境地を指していると考えられる。

ナマ サルバ ドウルガデ バリショードニ ラザヤ
 ダターガダヤ リハーディ
 サムヤク サンブダヤ ダッド ヤター
 オーム ショードニ サルバ パーパ ビショードニ
 シューデ ビシュッデ
 サルバ カルマ アーバラナ ビシュッデ スヴァーハー⁶³

V: [神国（ノ兜率天）への道のりとそこでの心得]

(fol.v13-l.3) 以上のように、三悪趣への扉を確実に封鎖し、仏、菩薩などあらゆる聖者の大慈悲と、真実の言葉⁶⁴の加護が「あるの」だから、子孫たちは三宝に帰依し、これらの正しい決意と誤りのない福德の蓄積に依拠し続ける。

そして、幸福に満ちた善き神の国へ至る道とは言えば、この世界から北方に須弥山という4種の宝珠からなる山の王があつて、その上にある善法堂には帝釈天と32人の大臣「がいらっしゃり」、神と人の道を示す場所がある。そこでは、その神の王（帝釈天）が善男子たる汝に仏教の規範を説き、福德の力を示してくれるだろう。

善男子よ、そこより山々の北方の頂には、楊柳宮という「宮殿があり、そこには」世尊・金剛手菩薩が恐ろしい数多の眷属を従えていらっしゃる。あらゆる所望が思う通りに成就するように善男子たる汝に灌頂を与えてくれるであろう。

そして善男子たる汝よ、金剛手菩薩の加護によって進め。

「そうすれば」兜率天という天界があり、そこでは釈迦牟尼の仏教の後継者⁶⁵である聖者弥勒という方が、眷属である菩薩、ヴァスミトラやセンゲバルナンなど、賢劫の996菩薩など、そして数多の天子と「ともに」宝珠からなる無量宮「にいらっしゃる」。あふれる天界の宝物と様々な音楽、無尽の教え⁶⁶といった想像を超えたものなど、幸福の源となるものが揃っている。その善き神国で、多くの安楽を謹んで享受せよ。

善男子よ、神の物資を喜びのためだけに享受するのではなく、自身とあらゆる

⁶³ 北京版(No.116, Vol.5, ta 55b1-2)によれば、『一切悪趣清浄タントラ』の根本ダラニは次の通りである。
 Namō bhagavate sarvadurgati-pariśodhana-rājaya tathāgataya (sic. thathāgatāya) arhate samyaksambuddhaya
 tadyathā o (sic. om) śōdhane śōdhane sarvapāpam viśōdhane śuddhe viśuddhe sarvakarma āvarana viśudhe svāhā.

⁶⁴ bka' bden pa: 必ず実現する事が約束された仏の言葉。ここでは今までの誓願と真言の言葉が実現する事を言うものであろう。

⁶⁵ 弥勒菩薩が、釈迦牟尼の滅後56億7000万年後に下生する未来仏であることを指して後継者と述べている。

⁶⁶ 無尽の教えとは、常に説法を享受できる世界であることを意味している。

る衆生が遍く涅槃に至るようになせ。福德と知恵の蓄積を求めることについては、満足できない心を捨てよ。食欲から放たれるようにせよ。

VI: [仏教徒としての心得]

(fol.v19-l.1) 一切知をもまた [探し求めよ] ⁶⁷。

神通力についてもまた、変幻できるよう [な神通力を得るよう] になせ。

法界についてもまた、気をそらすな。

発菩提心についてもまた、忘れるな。

[そうして得た] ブッダの神通力と加護をまた、[他の人々にも] 悉く発揮せよ。

『神国道説示』完。オーム。

4. 両作品の概要と著作目的

以上でみた『置換』と『神国道説示』の内容をもとに、以下では両文献の著作目的を考察したい。

まず、『置換』では、古代葬儀を構成していたと思われる諸要素のうち 6 要素が列挙され、それが仏教的要素で置き換えられていた。I～III 部では、リングル、ウンロプ、スィーの 3 要素が置換されるべき旧来の要素であり、それぞれ、遺体のテント、主に外祖父から贈られる高価な衣服等の餞別の品、親族からの餞別の品を指していた。しかし、これまで看過されていた置き換える側、すなわち仏教的行為やその功德に着目して読み直してみると、旧習の物品の実態が次のように理解できる。

第 I 部では、三宝に依拠して、死者を清浄な香によって清め、真言を唱える功德によって、死者某には、「解脱という比類ない宮殿⁶⁸」が手に入る、と述べられる。つまり、旧習を廃して仏教的行為を実践した結果として得られるのは解脱であり、それは「宮殿」であると換言されている。本作品の目的が、旧習を類似する仏教的要素、概念に置き換えることにあることを考慮すれば、廃止されるべき旧来の葬儀でも、「宮殿」に類似する物品が用意されていたと想

⁶⁷ Pt. 239 にのみ冒頭に *de nas shln* とあるが、Pt. 37 と ITJ 151 にはこの記述はないため、これは不要と思われる。後に述べるように、第 V 部以降では、死者に対して「寿命の尽きた汝よ (*tshe 'das pa khyod*)」という呼びかけの代わりに「善男子よ (*rigs kyi bu*)」という仏教的な呼びかけが用いられている (注 90 参照)。

⁶⁸ *'phul gl gzhal yas khang*.

像できる。翻って、旧習に関する記述には「由来伝承が書かれた絹の幡⁶⁹」、「絹製の中国の建物を模した [リングル] ⁷⁰」という描写がみつか。続いて述べられる 3 種の飾りはいずれもリングルに取り付けられた装飾であろう。こう解釈した上で本段落の趣旨を整理すれば、旧来の葬儀では、死者の住まいとなるようなリングル（／絹製の建物）を作り、各種の飾り付けを施したと考えられる。つまり、リングルあるいは遺体のテントと呼ばれる品は、死者の住まいに相当すると理解できる。

第 II 部では、死者に対して主として外祖父が贈る高価な衣服等の餞別の品、ウンロブについて述べられる。ウンロブが指す具体的な物品として本文中に登場するのは、「勇敢なもの⁷¹」と「旅立ちの必需品⁷²」であり、それぞれを家畜の群れと宝物から選び出して遺族からの餞別の品として贈っていた。石川は、この記述を「ウンロブが家畜であるかのように記している箇所」とみて、衣服の「代わりに同等の価値を持つような犠牲の家畜に変えることができたのかもしれない」と述べている⁷³。しかし、ウンロブが主に外祖父から贈られる高価な品であったと理解するならば、衣服や鎧の他に犠牲の家畜がその範疇に含まれることがあったとしても不思議はない。ここで再び、対応する仏教的要素に着目すると、三宝に依拠し、良い誓願をたて、真言を唱える功德により、死者には「親族の甲冑と素晴らしい鎧が手に入る⁷⁴」と述べられる。仏教的行為の果報として得られる甲冑や鎧というのは、それらと同様に死者を守る仏の加護を指すものであろう。つまり、本段落における主題は、甲冑や鎧に代表されるような死者の身体を守る、あるいは死者の身につける武具であると理解できる。旧習における「旅立ちの必需品」が武具であったとすれば、それらが宝物の中から選び出されることに合致する。家畜の群れから選び出される「勇敢なもの」については、武具と同じくウンロブの指す範疇に含まれていたのであろうが、ここでは詳しく触れられない。おそらく、後半の 3 部で述べられる 3 種の動物がこれに相当するのであろう。

第 III 部の主題は、スィー、すなわち餞別の品である。旧習で贈られていた親族からの餞別の品の記述の後に、テキストの脱落があることは既に指摘しておいた。その前提のもとで読むと、仏教的行為としては、清浄な食べ物を用意

⁶⁹ smrang dar.

⁷⁰ rgya khang dar khyim las dpe blangs.

⁷¹ chu gang.

⁷² khrel ltas.

⁷³ 石川 2008, p.179.

⁷⁴ gnyen byam pa 'I ya lad dang // 'phrul gyl go ca thob ste.

し、真言を唱え、穀物燻蒸などにより餓鬼諸々に布施をすることが推奨されている。そして、その功德によって死者には「神饌と甘露を口にする力が手に入る⁷⁵」と述べられている。したがって、旧習で遺族が死者に贈っていた餞別の品もまた、何らかの飲食物であった可能性が高い。

このように、仏教的要素の側に視点を置いて読み直すことにより、旧来の葬儀で用いられた物品の実態と意義がより鮮明になったと言えよう。すなわち、旧習では死者の住まいとなる絹製の建物、死者の身につける武具、そして死者が口にする飲食物、つまり死者の衣食住に関連する物品が贈られていたと理解できる。しかし今後は、三宝に依拠し、良い誓願をたて、香による清めや真言の読誦といった仏教的行為を実践することによって、代替物、すなわち解脱という比類ない宮殿、甲冑や鎧の役割を果たす仏教的加護、神饌と甘露を口にする力が手に入ると説かれている。したがって、I～III 部においては、旧習で死者に捧げられた衣食住に関わる物品が、仏教的行為の功德によって手に入る概念的な品々に置き換えられていると理解できる。

一方、後半の 3 部では、供儀に用いられる犠牲獣の無益さが説かれる。羊について扱う第 IV 部では、死後の道は死者自身の行いによって決定されるのだから、羊が死者の道案内をする必要はないと説明される。馬に関する第 V 部では、旧習についての記述が欠けており、観音菩薩の化身たる馬王バラハの物語が重点的に語られる。この物語を受けて、死者も馬王物語中の人々と同様に善業が尽きたために若くして死に至り、救いがいないのだ、と早逝の原因が死者自身にあることを説く。そして、今後は、名馬を供儀に用いずに家畜として長く生かすことが奨励され、馬の供儀をバラハ信仰に置き換えれば、その功德によって馬王の物語中の人々があらゆる恐れから救われたように死者も救われることが示唆される。最後の第 VI 部は、親族からの餞別の品であるヤクが主題である。今後はヤクを殺さずに、広大な草地で寛がせることが奨励され、その見返りとして、ヤクと同様の役割を果たす武器が手に入るようにと祈願されている。このように、本作品の後半では羊、馬、ヤクの供儀の無効性が仏教概念によって説明されていると言える⁷⁶。死後の道は生前の行いによって決定され、早逝して救いがいない状態にあるのは死者の善業が尽きたことによるのだから、死者を導く犠牲獣は必要ないのである。

以上のように本作品では、全 6 部を通して、死者に捧げる高価な供物や犠牲

⁷⁵ lha 'I bzas dang bdud rtsI btung ba 'I dbang thob.

⁷⁶ 旧来の葬儀では、羊は死者の案内役、馬は死者の乗物、ヤクは死者の護衛の役割を担っていた。各々の役割については Stein 1971 に詳しいほか、山口による紹介もある（山口 1985, pp.551-554）。

獣の無益さが説かれる。これにより、仏教徒としては最も避けるべき行為である殺生を禁ずることが本作品の第一の目的であったに違いない。一方で、前世の業や生前の行いによって今生の、そして死後の命運が決定されるという仏教の基本的立場を説くこともまた、本作品の目的の1つであったと考えられる。

しかしながら、本作品の本質を考える上では、まだいくつかの疑問が残る。本作品の前半では、高価な餞別の品を用意せずとも、仏教的行為の実践により死者の衣食住に関わる概念的な品々が手に入ることが説かれる。一方、後半では犠牲獣の無効性が説明され、善行実践の果報として「一切の苦しみから逃れ、生、老の苦悩がない永久不変の身体が手に入りますように」、「家畜と財産 [に恵まれるという] 幸福を享受できますように」「亡くなった家族や友人全てに会えますように」、「喜びの地に至れますように」といった内容が祈願されている。しかし、死者を導くという犠牲獣が担っていた役割を代行する仏教的要素や概念は、前半部ほど明確には示されていない。古代宗教の信奉者たちが犠牲獣を捧げる儀礼を放棄するには、代替となる仏教的要素がはっきりと示される必要があったであろう。そこで登場するのが『神国道説示』である。

『神国道説示』は、死者が神国 (lha yul) あるいは死者国 (gshin yul) へ至るための道を示した書であり、内容は、I: 序文、II: 死後の心得、III: 輪廻について、IV: 悪趣に落ちない心得、V: 神国への道のりとそこでの心得、VI: 仏教徒としての心得の全6部から構成されている。

まず、第I部では「死者の道を示す (／『神国道説示』⁷⁷)」というタイトルから始まり、仏陀世尊、菩薩と大菩薩、聖者阿羅漢への祈願文が記される。

第II部から第IV部までは、「寿命の尽きた汝よ、聞け⁷⁸」という定型の死者への呼びかけからはじまる⁷⁹。第II部では、万物に死が突然訪れることを説き、まさにその瞬間を迎えた死者が孤独の中、彼岸へと向かうには、三宝に従い、守護者である仏、大菩薩、聖者阿羅漢以外に頼るものはないと説かれる。

第III部では、この世に生を受けた者には必ず死が訪れ、ある生から次の生へと流転する生死の道が惨めであること、つまり輪廻は苦しみに他ならないことが簡潔に説明される。

つづく第IV部には、死後に悪趣、すなわち地獄道、餓鬼道、畜生道の三道

⁷⁷ 本作品のタイトルは、冒頭では gshin lam bstan ba' と記されており、これを直訳すれば『死者道説示』となる。しかし、作品の著作目的を考慮すれば、末尾に記された lha yul du lam bstan ba (『神国道説示』) を作品名と考える方が良い。

⁷⁸ tshe'das pa khyod nyon clg.

⁷⁹ 第III部と第IV部は一続きに書かれており、IV-1の冒頭には定型の文言が見えない。しかし、第III部は輪廻について述べた個所であるため、構成としては別に分類した。

に落ちないための心得が順に記される。はじめに、地獄道が如何に恐ろしく惨めな場所であるかが述べられ、そこへ落ちないように用心すべきだが、万一落ちる恐れがある場合には、地獄道から衆生を救出してくれる菩薩に対して誓願をたて、真言を唱えて加護を願えば救われることが説かれる。そして最後には、菩薩に対する具体的な誓願の言葉と真言が示されている。話の展開は、餓鬼道、畜生道でも一樣だが、各世界から衆生を救出する菩薩が異なっており、地獄道では観世音菩薩が、餓鬼道では虚空蔵菩薩が、畜生道では悪趣清浄菩薩がその役割を担っている。ここで興味深いのは、本作品では観音菩薩が他の 2 菩薩と並列的に記されていること、さらにその真言がオン・マニ・ペメ・フンの六字真言ではないことである。12-13 世紀以後のチベット仏教において、観音菩薩は徐々に突出した絶対的尊格として崇められるようになり、その六字真言の各音節は六道（六趣）の各々から衆生を救うとされ、「マニ」は真言の代名詞となった。ところが本作品での観音菩薩は、地獄道からの救済を担うだけで、畜生道と餓鬼道は他の 2 つの菩薩が担っている。すなわち、観音菩薩は他の菩薩と並ぶ 1 菩薩にすぎず、突出した全能の菩薩ではない。この時代においては観音菩薩の地位・役割は相対的なものでしかなく、後代のような観音信仰が成立していなかったことを物語っている⁸⁰。

第 V 部では、IV 部で示された菩薩の加護によって、死者は三悪趣へ落ちることがなく、それ故に子孫たちも三宝に帰依して福德の蓄積に努めるべきだ、と遺族及び子孫に対しても仏教への帰依が指示される。そして、いよいよ三悪趣へ落ちなかった死者が目指すべき世界、すなわち「幸福に満ちた善き神の国⁸¹」への道のりが示される。まずは、この世界の北方に位置する須弥山の善法堂で帝釈天から仏教の規範を学び、福德の力を示してもらう。次に、須弥山の北方の頂にある楊柳宮で、金剛手菩薩から所望が成就するように灌頂を授けてもらい、その加護によって弥勒菩薩の座す兜率天の無量宮へと進む。そこには、天界の宝物や妙なる音楽とともに、幸福の源である仏の説法が常に備わっているので、死者は「善き神国 (lha yul dam pa)」で多くの安楽を享受し、それを一切の衆生があまねく涅槃に至るために役立てるべきことが説かれる。ここに於いて、死者が目指すべき死者国 (gshin yul) が神国 (lha yul) であり、それはすなわち弥勒菩薩の座す兜率天であるという仏教的な見地が明示されている。

⁸⁰ この見解は、古代チベットの観音信仰に関する研究成果を証左すると言える。古代チベットにおける観音信仰の概要については、Imaeda 1979、Kapstein 2000, pp.144-155、van Schaik 2006 に詳しい。

⁸¹ bde skyld phun gsum tshogs pa'l lha yul dam pa.

第 VI 部では、弥勒菩薩の元へと至った死者に対して、一切智や神通力の獲得を目指し、仏教徒としての修行を積むこと、そしてそれを一切の衆生に対して発揮すべきことが指示される。

以上を総合すると、『神国道説示』で最も紙幅が割かれているのは、第 IV 部の悪趣へ落ちない心得であり、そこでは具体的な対処策として菩薩に対する誓願の言葉と真言が開示される。それに続いて、悪趣に落ちなかった死者が目指すべき道、「善き神の国」たる兜率天への道のりが説かれるのである。つまり、『置換』に置いて否定された犠牲獣の役割、すなわち死者を無事に目的地へ導くという役割は、悪趣へ落ちる恐れから救済してくれる 3 種の菩薩と、彼らに対する誓願の言葉と真言によって置換されたとみることができよう。

5. 古代チベット人の死後の世界観

以上では、『置換』及び『神国道説示』の内容を検討してきたが、葬儀という具体的な対処法が必要とされる場面において、従来の慣習に替わる新たな仏教的対処法を勧める仏教徒側の意図の分析に主眼をおいてきた。しかし、チベットの 7-10 世紀は、インド起源の仏教が導入され、チベット土着の固有宗教と出会い、その後両者が対立、拮抗、相互受容と変容を繰り返した時代であった。すなわち、当時のチベット人の多くは、未だ仏教徒ではなく、チベット土着の固有宗教を信奉する人々であった。そして、この時代の産物である『生死法物語』・『置換』・『神国道説示』の三部作は、この歴史的状況を念頭において読む必要があり、この視点で読むことによって初めてその本質が理解できる⁸²。

あらためて『神国道説示』を読み直してみると、冒頭では、「死者の道 (gshIn lam)」⁸³とされていた死者の辿る死後の道が、V 部以降は「神国への道 (lha yul du lam)」となり、それが最終的には弥勒菩薩の座す兜率天への道であると話が展開する。しかし、なぜ初期の仏教伝道者たちは、死後の目的地に兜率天を選んだのであろうか。また、古代宗教の信奉者であるチベット人たちにとっての「死者の道」とは何を意味していたのか、そして彼らが目的とする場所はどこであったのだろうか。以下では、敦煌文書にみえる古代チベットの時間論、来世観を参考にこれらの問題について考えてみたい。

葬儀に関する敦煌文献によれば、古代チベット人の想定する世界には 2 つの世界があった。すなわち、「生者の国 (gson yul)」と「死者の国 (gshin yul)」である⁸⁴。「生者の国」で過ごす時間は、せいぜい 100 年程度なのに対して、

⁸² この視点の重要性は今枝 2006 に提唱されている (今枝 2006, p.104)。

⁸³ Pt. 37 には、gshin lha yul gtshang sar lam とある。

⁸⁴ 葬儀における動物の供儀を扱った Pt. 1194 文書には、「生者の国で草を食むよりも、死者の国

「死者の国」では 70 万年、あるいは 10 億年を過ごすと考えられていた⁸⁵。それ故に、当時のチベット人にとって、「生者の国」よりもはるかに長い時間を過ごすことになる「死者の国」へ旅立つ準備、すなわち葬儀を周到に行うことは極めて重要であったと思われる。そして、「死者の国」にも「喜びと幸せの国」と「悲惨と苦しみ」の 2 つがあることは前にも述べた。葬儀では、死者が誤って「悲惨と苦しみ」の国へ行くことなく、正しく「喜びと幸せの国」へ至るように死者を導く動物の助けが必要とされた。これらが、葬儀の犠牲獣に託された役割であった。そのほか、本稿でみたように、親族が「死者の国」で無事に過ごせるように遺族からは衣食住に関する餞別の品も送られていた。このような死後の世界が想定されていたことを考慮すれば、死者自身も生前に死後の備えを用意していたであろうし、その準備が十分でない時期に早逝や突然死を迎えることは避けなければならなかった。この状況を反映して、『置換』第 V 部では、「[この死者も] 人の [善] 業が尽きてしまって、本人は魔物に捕らえられ、若くして死に至ったのである」と早逝の原因について取り立てて説明しているのであろう。

さらに、『衰退期』と呼ばれる一連の文献⁸⁶によれば、古代チベット人の時間論は三時代周期論であった。すなわち、最初の「神の善い時代 (lha'i dus bzang po)」あるいは「神人不分離の善い時代 (lha myi ma bye ba'i dus bzang po)」と呼ばれる善い時代から、段階的に衰退する「悪い時代 (dus ngan pa)」を経て、最後は「禍の時代 (skyin 'dang)」に至る三時代論であった。さらに、その後に、再び「神人不分離の良い時代」が到来し、新たなサイクルが始まるという周期論でもあった。『衰退期』が作成された時代は、既に悪い時代に突

'brem dang で稲の芽や麦粉とバター、サトウキビの汁 (?) を飲む [方が良い] (gson yul ni rtsva za bas gshin yul 'brem dang na 'bras kyi lchang pa dang pye mar ['da ('de)] 'de dang bu ram 'u gu cu 'thung ngo / Pt. 1194, ll.60-61)」と「生者の国」と「死者の国」が対比的に描かれている例がみられる (Stein 1971, p.514、山口 1985, p.552)。

⁸⁵ 「死者の国」で過ごす時間は、Pt. 1134 では 70 万年とされる (gson / che lo / brgya' ni / bra nga bsnyan la / dungs / grongs tshes bdu'n / 'bum ni / snam phyi gdub ltar / 'gor / te' / 生きている間は長くて 100 年・・・死んでからの寿命は 70 万年・・・ Pt. 1134, ll.163-165)。一方、『衰退期』について記した ITJ 733 文書では、その期間は 10 億年とされている (gson po la brgya'l brgyags tshol ba bas / gshin yul na / lo khri 'bum gyi brgyags tsho[l] du rung [ng]o' / 生きているうちの 100 [年分] の食料を求めるよりも、死者の国で 10 億年の食料を求める方が良いのだ。ITJ 733, l.26)。これらの文献については、スタンによるまとまった研究があるほか、『衰退期』に関しては、石川による論考も発表されているが、未だ不明な点が多い (Stein 1971, pp. 491-500 及び pp. 512-516、石川 2007)。

また、死者は死者の国で生きるが故に、『置換』及び『神国道説示』でみたような死者への呼びかけ、あるいは語りかけが可能となるのである。そして、この伝統は、*Bar do thos grol* など現代の葬儀実践へも継承されていると思われる (Imaeda 2010)。

⁸⁶ 石川によれば、『衰退期』は世界が次第に衰退していく様子を描いた予言書類である。現在のところ、ITJ 733、734、735 の 3 点が知られている (石川 2007)。

入しており、そこに生きる人々が待ち望んでいたのは、「神人不分離の善い時代」の一刻も早い到来であったと思われる。それを裏付けるように、『衰退期』では、「この悪い時代と悪い寿命が早く終わるように祈ります。禍〔の時代〕が早く到来するように祈ります」、「悪い時代が速やかに終わるように祈ります。神の善い時代が速やかに到来し、死んだ昔の人たちも善い時代に速やかに蘇るように祈ります」などの祈願文が記されている⁸⁷。そして、その善い時代に蘇るまでの期間を待機する場所が「死者の国」なのである。この長い時間を「悲惨と苦しみ」の国ではなく、「喜びと幸せの国」で過ごせるようにするのが古代チベットにおける葬儀の目的であったと考えられる。

翻って、『神国道説示』で最終的に死者の目的地とされるのは弥勒菩薩の座す兜率天であった。弥勒菩薩は、56 億 7000 万年後に下生成仏することが約束されている未来仏である。新たな善い時代、仏教的には正法の時代を開く存在である弥勒菩薩のいる世界は、古代宗教の信奉者であるチベット人にとって、次の「神人不分離の善い時代」が始まるまでの時間をそこで過ごしたいと願う「喜びと幸せの国」を想起するものであっただろう。また、そのように映るように仕向ける作意が三部作の著者たる仏教徒にもあったに違いない。兜率天も「喜びと幸せの国」も、共に善い時代の到来を待つ場所であるというロジックの共通性により、三部作の到達点は兜率天でなければならず、兜率天であるからこそ、仏教徒ではない古代チベット人にも選ぶべき死後の目的地としての理解が得られたのだと考えられる。

6. おわりに

最後に、本稿で検討した『置換』及び『神国道説示』に『生死法物語』を併せて、三部作全体の構成について再考してみたい。

まず、『生死法物語』は、父王の急逝に直面した神子リンチェンの生死法求法巡礼記であった。その最後において、釈迦牟尼は 8 種の忌むべき葬送儀礼を宣告する。それらの中には、屍を火に焼き、水に捨てることやバラモンの呪を唱えることなどが見られることから、インドの葬儀伝統に言及したものであると理解できる。そして、悪趣から遠のき、天上の安らかなところに生まれるために有効とされるダラニの存在が予告される。

続く『置換』では、忌むべき葬儀をチベットの具体的な事例と照らし合わせて、その無益さが順に説かれる。死者に高価な供物や犠牲獣を捧げることをや

⁸⁷ dus ngan pa dang tshe ngan pa 'di myur du zad par smon to' / skyin dang myur du 'bab par smon [no?]/ (ITJ 733, l. 27); dus ngan pa ni myur du zad par smon to' / lha'i dus bzang po la myur du bab jing myi snga ma shi ba'i mams kyang / dus bzang po la myur du sos par smon to' // (ITJ 733, ll.33-34).

め、その代わりに仏教的な行為を実践すれば、死者が必要とする物品が自ずと手に入ることが告げられるのである。なお、先の『生死法物語』で否定された8種の葬儀の第7番目には、生者の財物をすべて屍のように火に燃やすこと、第8番目には馬、水牛、山羊、羊を死者のために殺すことが挙げられ、これらが言語道断で誤った教えであると説かれている⁸⁸。『置換』の前半部でも高価な捧げ物、すなわち財産を死者に捧げることが、そして後半部では犠牲獣の無益さが説明されているのは単なる偶然ではないだろう。

最後の『神国道説示』では、『置換』で否定された犠牲獣に代わって、3種の菩薩が死者を三悪趣から救う、つまり死者を善い世界へ導くことが約束される。そのために有効な誓願の言葉と真言が開示され、このうちの1つが悪趣清浄菩薩の真言であった。『生死法物語』で予告された仏頂尊勝ダラニそのものではないが、教義的には矛盾しない悪趣清浄ダラニが確かに開示されているのである。最後には、菩薩の加護により悪趣に落ちることを免れた死者が目指すべき先が兜率天であることが告げられ、そこへ行く道のりと、そこへ至った後に実践すべき内容が指示される。

以上を総合すると、この三部作には、連続して話が展開するような布石が散りばめられており、最後の『神国道説示』までに全ての布石が回収される仕組みになっていると言える。つまり、これらが当初より三部作として完成させる意図のもとに著作されたことは間違いないだろう。

古代宗教の信奉者たちにとって、「死者の国」は生きている世界よりもはるかに長い時間を過ごす場所であるため、「悲惨と苦しみ」ではなく、「喜びと幸せの国」に至るための葬儀は極めて重要な意味を持っていた。しかし、仏教の教えでは、死は不可避であり、死の時期や死後の道を決定するのはあくまでも今生の行いである。したがって、死者に対して捧げる奢侈な埋葬品や動物供犠といった従来の追善供養は無意味ということになる。特に動物の供犠、すなわち殺生が仏教徒としては最も避けるべき行いであることは言うまでもない。そこで、初期の仏教伝道者たちは、古代チベットの死後の世界を仏教の概念に重ねながら、無益な財産の放出や殺生をせずとも、死後に善い世界へ向かうことができると説明する。その際、後に仏教用語として定着する古代チベットの土着宗教用語、あるいはそれを連想させる語彙の両義性が巧みに利用され、古代宗教と仏教の両文脈で解釈できるような文学作品に仕上げられていた⁸⁹。

⁸⁸ 今枝 2006, p.76.

⁸⁹ 例えば、三部作に散見される 'phrul という語は、一般的には仏教用語として mam par 'phrul ba (神通力、神変力) などの語彙に用いられるが、古代チベットの土着宗教の世界では、一種の超人的能力、特にツェンポの持つ能力を指していた。また、『生死法物語』中の bde skyid gnas (安らか

一方、『生死法物語』の最後において、釈迦牟尼は天上の安らかなところに生まれるために有効なダラニと呪の修法を説いた。ここでいう「天上の安らかなところ」とは、「善趣」を意図したものであろうが、先に述べた語義の両義性の仕掛けにより、古代チベット人には「喜びと幸せの国」に映ったに違いない。しかし、三部作全体を通して読むと、その最後にあたる『神国道説示』において、死者の目指すべき先が「善趣」ではなく、弥勒菩薩の教えを享受できる兜率天であると宣告されていた。仏教徒である著者は、古代宗教の信奉者であるチベット人に対して、彼らが死後に目指す「喜びと幸せの国」の概念を仏教の概念である「善趣」に投影し、最終的にそれを兜率天へと移行させた上、そこで修行の実践に努めるよう勧めることを通じて、仏教文学としても矛盾しない作品を完成させることに成功したと言えよう⁹⁰。

7. 資料：『神国道説示』 4 写本対照テキスト⁹¹

A: P.t. 239, B: P.t. 37, C: P.t. 367 + P.t. 366, D: ITJ 151

A: (v1-1) \$/// de nas gshIn lam bstan ba' //

B: (8v-4) de nas gshin 'lha yul gtshang sar lam bsto (8v-5)n

A: bla na myed pa'l ye shes bsam gyls myl khyab (v1-2) pa //

B: bsam gyis myi khyabs pa'i lha 'i spyen mams par dag (8v-6)
pa lam bstan pa'i //

で幸せな住まい) や『置換』中の bde skyid g.yung drung gnas (永遠の喜びの地)、『神国道説示』中の bde skyid phun gsum tshogs pa'i lha yul dam pa (幸福に満ちた善い神の国) などは、古代宗教において死者が辿りつくべき dga' skyid yul (喜びと幸せの国) を連想させる語であったに違いない(今枝 2006, pp.105-107)。本稿でみた『神国道説示』第 IV 部の餓鬼道に落ちない心得において、餓鬼道では苦しむ衆生が 10 億年の間嘆き声をあげている、という描写もまた、死者の国で 10 億年を過ごすと考えたチベット人たちには、死後の道を誤って「悲惨と苦しみ」の国に至ってしまうと、その地で 10 億年の間、苦しみながら過ごさねばならないという意味で捉えられたであろう。

⁹⁰ 菩薩の加護によって悪趣へ落ちることを免れた死者は、仏教徒として兜率天を目指し、修行を積むことになる。それ故、第 V 部以降、死者に対して「寿命に尽きた汝」ではなく、「善男子」という仏教的な呼びかけが用いられているのであろう。

⁹¹ チベット語テキストの翻字規則及び使用する校訂記号は、Imaeda *et al.* 2007, xxxii-xxxiii に従った。なお、異綴りや誤写の校訂や語彙の読み替えについては、翻訳に利用した Pt. 239 のみを対象として脚注をつける。ただし、ldan/ltan や skyab/skyob など、翻訳に用いた綴りが容易に想像できるものや、他の写本によって理解できる場合は煩雑さを避けるために、その一々を記さないこととする。

- A: lha 'I spyan mam par dag pa dang ltan ba //
- B: bsam gyi myi khyabs pa'i lha 'i spyan mams (8v-7) par pa dang ldal ba
- A: sangs rgyas bcom ltan 'das thams (v1-3) cad dgongs su gsol //
- B: sangs rgyas bcom ldas 'das thams (9r-1) shad dgongs su gsol /
- A: sems can thams cad la // bu cIg bzhIn du snyoms par (v2-1) skyob pa'I
- B: sems thams shad la bu cig zhIn du skyab ba (9r-2) 'i
- A: byang cub sems pa // sems pa chen po mams gongs su gsol //
- B: byang cub sems pa chen po mams dgong su gsol //
- A: yang dag (v2-2) pa'I shes rab dang khams gsum gI nyon mongs pa thams cad //
- B: yang dag (9r-3) pa'i shes rab khams sum gyis nyon mongs pa thams shad
- A: rtsa nas bcom ste / cha gnyIs las (v2-3) mams par grol ba'I gong 'phang⁹² chen po myes pas⁹³ //
- B: rtsa nas (9r-4) bcom ste // cha nyis lam mams par grol ba gom phang chen po b (9r-5) snyes pa //
- A: 'phags pa sgra bcom ba mams dgongs (v2-4) su gsol //
- B: dgra bcom ba mams dgongs su gsol //
- A: tshe 'das pa khyod nyon cIg //
- B: tshe 'das (9r-6) pa'i 'khyod nyon cig
- A: tshe 'das pa khyod la 'jIg rten thams cad (v3-1) gyI //
- B: tshe dang ldan ba khyod la // 'rjigs rten thams (9r-7) shad kyi
- A: chos nyId glo bur myI rtag pa'I dus la bab ste //
- B: chos nyid glo bur gyi [sgyiu] ma sprin ldar myi rtags pa dus (9v-1) byas nas //

⁹² gong 'phang: go 'phang.

⁹³ myes pas: myed pas.

- A: 'dus byas kyi lnga phung rgyu ma zhl̥g ste //
- B: 'dus byas kyi lnga phung [sgyiu] ma zhig sti //
-
- A: (v3-2) j̥l̥g rten 'dl̥ nas // pha rol du 'gro ba'l̥ pho skyab chen po 'debs pa'l̥ dus la bab ste //
- B: 'rdzigs (9v-2) rten 'di nas pha rol du 'gro ba'i pho skyes chen po de<n>bs ba'i (9v-3) dus la bab ste //
-
- A: (v3-3) gc̥l̥g pu gnyl̥s su myed par // sa tsugs myed pa'i gn̥as su 'gro ba'l̥ mgon dang skyabs su n̥l̥ //
- B: gchigs nas gnyis su myed par sa tshu (9v-4) gs myed par 'gro ba'i mgon dang skyab pa ni //
-
- A: (v3-4) sangs rgyas bcom ltan 'das dang // byang cub sems dpa' sems pa chen po dang //
- B: sangs rgyas b (9v-5) com ldan 'das dang // byang cub sems pa dang //
-
- A: 'phags (v4-1) dpa' dgra bcom ba las che ba' zhan myed pas //
- B: 'phags (9v-6) pa dgra bcom ba las che ba gzhan yang myed bas //
-
- A: de las tshe 'das pa khyod yld ma gol // (v4-2) sems n̥l̥ ma log par //
- B: tshe dang ldan (9v-7) ba khyod // yid ma 'grol sems ma ldogs par //
-
- A: dus thams cad du dkon mchog gsum kyi yld la sbyos⁹⁴ la //
- B: (10r-1) dus thams shad du // dkon mchogs gsum yid byos (10r-2) ste //
-
- A: dkon (v4-3) mchog la rjes su phyogs la // gzhan du mgos po ci la yang yld kyi lam ma byed c̥l̥g //
- B: dkon mchogs gsum la rjes su phyags pa la sa // (10r-3) gzhan // dngos po ci yang yid la ma byed c̥l̥g //
-
- A: sems (v4-4) kyi srang ma dod c̥l̥g //
- B: sem (10r-4) kyi srang ma gdod c̥l̥g //
-
- A: gzhan yang tshe 'das pa khyod nyon c̥l̥g //
- B: gzhan yang tshe dang ldan ba khyod nyon (10r-5) c̥l̥g //

⁹⁴ sbyos: sbyor.

A: khams gsum gl btson ra 'dlr (v5-1) sgyu ma 'I lus blangs ste //

B: khams gsum gyis btson ra 'dis sgyu nga ma'i lus (10r-6) byang ste //

A: skyes so cog thams cad ni // mthar shI ba las thar pa cIlg kyang (v5-2) myed de //

B: skyes so chogs thams shad ni // 'chi bas las (10v-1) bthar pa cigs myed //

A: de ltar skyes pa gcIlg nas cIlg du 'gro ba 'I skye shI lam nyam nga pa //

B: de ldar skye ba gcigs nas gcigs tu (10v-2) 'gro ba ba'i skye shi lam ngan pa nyam nga ba

A: de lta bu dag (v5-3) yod kyIs yId la dran bar byol shIg //

B: 'di yid la dran bar byos (10v-3) shig //

A: 'dzam bu glIng 'dir dpag tsad brgyad khrl 'I 'og na /

B: 'rdzam bu gling gyi nas 'phags tshad [khiu] 'og na //

A: (v5-4) na rag chen po 'i gnas yod lcags gyIs gzhIng 'bar ba'I ste na⁹⁵ //

B: na rag (10v-4) chen po'i gnas lcags kyi sa gzhi bdar ba'i sgring ///

A: lcags kyi khang pa 'bar (v6-1) ba'I nang du /

B: (10v-5) \$ /// // lcags kyi khang pa 'bar ba'i na du

A: rag sha mthu bo che mang pos // 'bum grangs myed par // btso zhIng bsrag pa⁹⁶ dang //

B: rag sha m (10v-6) thu bo che // lo khri phrags myed par (interline<) bco zhin rags pa
dang / (>interline)

A: (v6-2) gdub cIng dmyal ba las stsogs de //

B: <lcags kyi khang pa /> (10v-7) btubs cen dbyang ba las bstogs ba'i

A: stug sngal myI bzad bar // kun du 'o dod chen po 'bod cing //

B: stugs bsngal gyi (11r-1) myi bzad bas // kun du 'od 'od 'bod pa'i

A: (v6-3) smre sngags 'don pa'I na rag 'dl lta bu dag gi gnas yod kyi //

⁹⁵ ste na: steng na

⁹⁶ bsrag pa: bsreg pa

- B: na rag 'di (11r-2) lta bu gnas yod kyis //
- A: tshe 'das pa khyod lam der myI (v6-4) ltung pa'I bag cher byos la //
- B: tshe dang ldan ba khyod der myi ltung (11r-3) bar bag byos la //
- A: brgya la der ltung bar dogs na // na rag chen po de la chang kyur skyob pa //
- B: brgya la der ltung du dogs na // na rag gyi (11r-4) gnas chen po de las // chang kyur skyobs pa'i //
- A: (v7-1) byang cub sems dpa' 'phags pa spyen ras zIgs kyI dbang po zhes bya ba yod kyIs //
- B: byang cub (11r-5) sems ba 'phags pa spyen ra gzigs kyI dbang phyugs (11r-6) ces bya ba // yod kyis //
- A: (v7-2) de 'i mtshan dran bar byas la // gsol ba bdab pa'I tshig 'dI dang //
- B: de mtshan drang bar byos la // (11r-7) gsol ba gtab pa'i tshigs // 'di dang
- A: sngags 'dI smros la (v7-3) skyabs su gsol cIg dang //
- B: sngags kyis (11v-1) snying po smras ste // sbyabs su gsol cig dang //
- A: gnas ngan pa de las thar par 'gyur ro //
- B: gnas / (11v-2) ngan pa de las thar par 'gyur 'o //
- A: mam par thugs rje sgo (v7-4) nas // byang cub mchog bmyas pa //
- B: mams thar thugs rje (11v-3) can gyi sgo nas byang cub mchogs bsnyes pas //
- A: chos mchog skyon bral tshangs pa chen po 'i dbyangs gsungs (v8-1) bas //
- B: thub chogs (11v-4) skyon bral tshangs pa'i byang cub gsungs pa //
- A: mtshan thos stug sngal zhe mdzad phongs pa'I⁹⁷ mgan gcIg pa' //
- B: mtshan tho (11v-5) s sdugs sngal zhi mdzad 'phongs ba'i mgon thigs pa //
- A: spyen ras gzIgs (v8-2) dbang de 'Is skyab du gsol ///

⁹⁷ 'phongs pa'I: spong pa'I.

B: (11v-6) spyan ra gzigs gyi dbang des bskyabs du bsol //

A: ^oM hrI hung pad ma prI ya sva h'a ///

B: ^oM (11v-7) hi pad ma pri ya sva h'a ///

A: tshe 'das pa khyod nyon cIg //

B: // \$ /// tshe dang (12r-1) ldan ba khyod nyon cig //

A: (v8-3) gzhan yang 'dzam bu gIing 'dI nas // dpag tshad lnga brgya 'T'og na //

B: 'zab bu gIji 'di dphags tsan brgya 'i 'og (12r-2) na //

A: yI dags kyl 'jIg rten zhes bya (v8-4) ba //

B: yi dag kyi 'jigs rtan zhis bya ba lhag par //

A: lhag par bkres grang gIs nyon mongs pa'I // sems can lo brgya stong du mar yang //

B: bkris she (12r-3) ng grang bas nyon mongs pa'i sems shan // lo brgya stong du (12r-4)
mar

A: mchIl (v9-1) ma dab pa gcIg tsam yang bza' ba'I skal ba myed la //

B: mchil ma'i thal ba tsam ba yang bza ba'i skal ba dang (12r-5) myi ldan la //

A: lus kyI gos dang myI ltan zhIng // nam (v9-2) ka la lcags gyI ser ba drag po 'bab pas //

B: lus kyi gos kyang bgos myed do //

A: lo khri 'bum du cho nge sgra 'byIn ba 'dI lta bu 'I na rag (v9-3) kyI gnas yod kyis //

B: lo khri (12r-6) phrags du mchong nge sgra 'byin pa // 'di lta bu na rag gi gnas yi (12r-7)
d kyi sa

A: der myI 'gro par tshe 'das pa khyod bag cher byas la // der ltung bar dogs na //

B: der yang myi 'gro bar tshe dang ldan ba 'khyod bag byos la / (12v-1) brgya la der lhung
du dogs na //

A: (v9-4) yI dags kyl lam de la chang kyur skyob par byad pa //

B: yi dags lam de la [ca]ng (12v-2) khrur skyobs ba'i

- A: byang cub sems dpa' chen po nam ka mdzod (v10-1) ces bya ba yod kyls //
- B: byang cubs sems pa // sems pa chen po (12v-3) nam ka mdzod ces bya ba yor kyis //
- A: dge ba'i bshes nyen de dran bar byas la // gsol ba dab pa'I tshig dang /
- B: dge ba'i bshes nyen (12v-4) du dran bar byos la // gsol ba 'den ba'i tshigs 'di dang
- A: (v10-2) sngags gyI snyIng po 'dI smros la skyabs su gsol cIng //
- B: (12v-5) sngags kyi snying po 'di smras te // skyab su gsol cig dang /
- A: stug sngal gyI gnas de las thar par 'gyur (v10-3) ro //
- B: (12v-6) sdugs sngal gyi gnas ngan pa de las thar par 'gyur ro //
- A: bsod nams ye shes tshogs las / dpal gI sku 'khrungs ste //
- B: (12v-7) nam ka dbyings nas dpal gyi sku 'khrungs ste //
- A: dIng nge 'dzIn nam ka mdzod la (v10-4) spyod pa'I mnga' nye pa //
- B: ting 'dzin (13r-1) nam ka' mdzod las spyod pa'i mnga bnyes pas //
- A: bkres grang ba dang phongs pa'I yI dags sgrol mdzad pa //
- B: bkres grang (13r-2) [phyongs (/phrongs)] pa'i yi dags sgrol ba 'dzad pa //
- D: (v1-1) yi dags grol mdzod pa //
- A: mgon po nam (v11-1) ka mdzod kyls skyab du gsol //
- B: nam ka mdzod kyis (13r-3) bdan sa la bskyab du bsol //
- D: mgon po nam mdzad kyis gshin la chang khyur bskyab tu gsol //
- A: ^oM ga ga na sam ba ba dzra ho da ha sa ///
- B: ^o'M na ma pad ma tso hi da / (13r-4) sva hva ///
- D: ^om ga ga na sam bha' (v1-2) ba dzra ho da ha' sa //
- A: tshe 'das pa khyod nyon (v11-2) cIg //
- B: // \$ /: tshe dang ltan ba 'khyod nyon (13r-5) cig //
- D: tshe dang ldan ba gshin khyod nyon cig //
- A: rgyam mtsho chen po dang / gling chen po bzhi dang /

B: rgya mtsho chen po dang bzhi dang /

D: rgya mtsho chen po dang gling chen po bzhi dang /

A: lcags kyi rI chen po 'I bar gyI gnas la (v11-3) stsogs pa de dag na //

B: lcags kyi re chen po pa'i (13r-6) bar bar / na //

D: lcags kyi (v1-3) ri chen po'i // bar bar gyi ri <chen po 'i> //

A: lhag par blun zheng rmugs pas⁹⁸ //

B: mun nag gyi gnas las bspogs pa //

D: mun nag gi gnas la stsogs pa de dag na // lhag par yang blun zhing rmongs (v1-4) pas //

A: legs nyes gyI dud 'gro byol tsong gI (v11-4) gnas yod kyIs

B: sem (13r-7) s shan dud 'gro dang byol tsong gyi gnas yod kyis //

D: legs nyes kyi dud 'gro byol song gi skye gnas yod kyis //

A: lam ngan pa der yang myI ltung skyeb bar bag cher gyIs shlg //

B: lam ngan pa (13v-1) der mye skye bar bag byos la //

D: lam ngan pa der yang myI skye myi ltung ba'i bag cher (v1-5) byos la //

A: brgya la der ltung (v12-1) bar dogs na //

B: brgya la der ltung du dogs na //

D: brgya la der ltung du dogs na //

A: byol tsong dud 'gro 'i lam der

B: (13v-2) byol tsong dud 'go 'i lam ngan pa de las

D: dud 'gro byol song de las

A: chang kyur skyob pa'I byang cub sems pa ngan tsong spyong (v12-2) ba zhes bya ba yod kyis //

B: chang khyur skyobs ba'i / (13v-3) / byang cub sems pa sems pa chen po // ngan tsong spong ba zhes (13v-4) bya yod ky<e>is

C: (377v1-1) yod gyis //

D: chang khyur skyob pa'i // byang cub sems dpa' // (v1-6) ngan song sbyong zhes bya ba

⁹⁸ pas: pa'i.

yod kyis //

A: de la dge ba'I bshes nyen la rtag par dran bar gyIs la //

B: dge ba bshes nyen du rtags tu dran bar byos la //

C: de dge pa'I bshes nyen 'di rtag du dran bar byos la //

D: de dge ba'i bshes nyen 'di rtag tu dran bar byos la //

A: gsol ba bdab (v12-3) pa 'I sngags kyi tshIg 'di smros la //

B: (13v-5) gsol ba gdab pa'i tshig 'di dang /sngags kyi snying po 'di bjod

C: gsol ba gdab pa'I 'tshig 'di dang (v1-2) gsang sngags gyi tshigs 'di smros la //

D: gsol ba gdab pa dang / (v2-1) sngags kyi snying po 'di smros la //

A: skyabs su gsol //

B: skyabs [su] (13v-6) gsol cigs dang

C: skyob su gsol cig dang

D: skyabs su gsol cig //

A: de las thar par 'gyur ro //

B: //byol tsong dud ['gro] 'i lam de las thar par (13v-7) 'gyur do //

C: gnas ngan pa de las thar bar gyur </> (v1-3) ro //

D: gnas ngan pa de las thar par 'gyur ro //

A: de bzhIn nyId (v12-4) dang mthar phyIn ba //

B:

C: de bzhin nyid gyi mnga' bdag mthar phyin pas //

D: de bzhin nyid (v2-2) kyi mnga' dbang mthar phyin pas //

A: 'jIg rten kun du gsal pa'I ye shes sgron ma yIs //

B: mun nag gsal ba'i byed pa'i ye shes sgron (14r-1) ma yis //

C: 'jig rten kun du gtsal pa'I ye shes sgron ma yIs

D: jig rten kun tu gsal ba'i ye shes sgron ma 'is //

A: dud 'gro rmongs pa'I (v13-1) las skye bo sgrol mdzad pa' //

B: dud 'gro rmongs pa'i lam las skye bo sgrol (14r-2) mdzad pa //

C: (v1-4) dud 'gro rmongs pa'I lam las skye bo sgrom mdzad pa //

- D: dud 'gro rmongs pa'i lam (v2-3) las skye bo sgrol mdzad pa //
- A: mgon po ngan tsong spyong gyIs skyab du gsol de ///
- B: mgon po ngan tsong sbyong ba gyis bskyabs du g (14r-3) gsol //
- C: mgon po ngan song sbyong gyis gshin khyod la // (v1-5) chang [khya]r skyabs su gsol //
- D: mgon po ngan tsong sbyong gis // gshin la chang khyur bskyab tu gsol //
- A: na ma sa rba dur ga (v13-2) de // ba rI sho danI //
- B: na ma sa rba dur bur te // pa re sho dan //
- C: na ma sa rba tur ga ti pha ri sho dha na
- D: na ma sa rba tu ga ti pa ri (v2-4) sho dha na /
- A: ra dza ya da tha ga da ya ^a rI ha dI // sam yag sam bu da ya //
- B:
- C: ra dz'a y'a ta tha ga tha y'a ^a ri ha te sam (366r1-1) myag sam bu'd dha ya
- D: ra dza ya' // ta tha ga tha ya / ^a ri ha te sam myag sam 'bhu dha ya /
- A: dad ya tha // ^oM sho da nI (v13-3) sa rba pa pa byI sho dha nI //
- B: tyad ya tha (14r-4) / ^o'Mim sho de ne / se rba pa phyi sho da ne /
- C: tad thya ta ^om shod dha ne sa rba ba ba b'i shid dha ne
- D: tad thya da / ^o'm sho dha ne / sho dha ni // pa rba pa pa bha shod (v2-5) dha ne /
- A: shud de byI shud de // sa rba kar rma ^a ba ra na byI shud de sva h'a' ///
- B: byi sho da ni // sa rba ka rma (14r-5) ra ^a ba ra na byi shod de sva h'va' /// \$ \$ //
- C: sh'u dhe bi shud dhe sar ba kar ma (r1-2) ^a ba ra bi shud dhe sva h'a' //
- D: shud dhe bhi shud dhe / ma rba kar ma ^a bha ra ba shud dhe sva ha' //
- A: de ltar ngan tsong gsuM (v13-4) gI sgo nges par bkag nas //
- B: (14r-6) \$ /// de ldar ngan tsong gseum gyi sgo nges par bkag (14r-7) s nas //
- C: de ltar ngan song gsum gyi sko shes bar bkag nas //
- D: de ltar ngan tsong gsum gyi sgo bkag nas //
- A: sangs rgyas dang byang cub sems dpa' las stsogs pa //
- B: sangs rgyas dang byang cub sems pa pa'i sems (14v-1) ba chen po las bstogs pa //
- C: sangs rgyas dang byang (r1-3) chub sems dpa la stsogs pa

- D: sangs rgyas (v2-6) dang byang cub sems /
- A: 'phags (v14-1) pa thams cad gyI thugs rje chen po dang // bka' bden ba'I byin kyi rlabs
kyis //
- B: 'phags pa thugs rce chen (14v-2) po bka bden ba byin labs{s} dang //
- C: thams cad gyi thugs rje chen po dang bka' bden ba'I byin brlabs (r1-4) dang
- D: thams cad kyi thugs rje chan po dang bka' / bden ba'i byin rlabs dang //
- A: gnyen 'dun phyI (v14-2) ma mams kyIs // dkon mchog gsum la brten de //
- B: nyen 'dun phyim mams (14v-3) kying // kon mchogs gsum la bten ste //
- C: gnyen sdug phyi ma mams gyis dkon mchog / gsum la brten te //
- D: gnyen sdug (v3-1) phyi ma mams kyis // dkon mchog gsum la brten te //
- A: yang dag pa'I chu gang ma nor pa'I sod nams (v14-3) gyI tshogs 'dI dag la //
- B: yang dag pa'I (14v-4) bsod nams kyis chung // gang kyi tshogs 'di dag gyis //
- C: yang dag pa'I chu gang ma nor (r1-5) pa'i bsod nams gyi tshogs / 'di dag gis
- D: yang dag pa'i chu gang dang // ma nor pa'i bsod nams / (v3-2) kyi tshogs 'di dag gis //
- A: brten cIng bdeg nas // bde skyId phun gsum tshogs pa'I lha yul dam par (v14-4) 'gro
ba'I lam ni //
- B: (14v-5) brten bzhang bten nas bde skyed phun sum tshogs pa'i lha yu (14v-6) l pad par
'gro ba'i lam ni //
- C: bteg cing brten nas bde skyid phun sum tshogs pa'I lha yul (r1-6) dam par 'gro pa'i lam ni
- D: bteg cing brten nas bde skyid phun sum tshogs pa'i // lha yul dam par 'gro (v3-3) lam ni
//
- A: 'dzam bu gling 'dI nas // byang phyogs na rI rab lhun po zhes bya ba //
- B: 'dzam bu gling 'di nas byang (14v-7) phyogs kyi ri rab lhun po zhis bya ba' //
- C: 'dzam bu gling 'di nas byang phyogs na ri rab lhun po zhes bya ba
- D: 'dzam bu gling 'di nas byang phyog na ri rab lhun po // zhes bya ba
- A: ri 'i rgyal po (v15-1) rin po che sna bzhi las grub pa zhiI yod de //
- B: ri 'i brgyal po rin (15r-1) po che sna bzhi las 'grubs ba zhigs yod ste //
- C: ri 'i (r2-1) rgyal po rin po che sna bzhi las grub pa zhiI yod de
- D: ri 'i rgyal po // rin po che sna bzhi las (v3-4) grub pa zhiI yod de

- A: de 'I steng na chos bzang lha 'I 'dun sa na //
- B: de 'i stong (15r-2) chos bzang po lha 'i 'dun sa na //
- C: de 'i sdeng na chos bzang lha 'I 'dun sa nas //
- D: de 'i steng na // chos bzang lha 'i mdun tsa nas //
-
- A: (v15-2) lha 'I dpang po brgya' byIn dang // blon po gsum cu rtسا gnyIs dang //
- B: lha 'i dbang po brgya byin blon (15r-3) po sum bcu rtسا gnyis dang //
- C: lha 'I (r2-2) dpang po brgya byin dang blon po sum cu rtسا gnyis dang
- D: lha 'i dpang po brgya byin dang / blon po sum cu rtسا gnyis (v3-5) dang //
-
- A: lha dang myI dang srId pa'I ltang (v15-3) phye zhIng lam ston pa yod de //
- B: lha dang myi srid kyis lam ston pa yod ste //
- C: lha dang myi 'i srid pa'I lam ston pa'I gnas yod de //
- D: lha dang myi 'i srid pa'i lam ston pa'I gnas yod de //
-
- A: der lha 'I rgyal po des // rIgs kyi bu khyod la //
- B: de yang lha 'i rgyal po des // rigs kyi bu khyod (15r-4) la //
- C: (r2-3) der yang lha 'I rgyal po des rigs gyi bu gshin la <g> dgongs su gsol // gshin khyod la
- D: der yang lha 'i rgyal po des rigs kyI bu gshin khyod (v3-6) la
-
- A: chos kyI man (v15-4) ngag ston cIng // bsod nams gyI mthu stongs par gyur ro //
- B: chos kyi man ngag ston cigs ga // bsod nams kyis (15r-5) mthu ston par 'gyur //
- C: chos gyi gnam (r2-4) ngag ston cing bsod nams gyi mthu' bstan par 'gyur ro //
- D: chos kyi man ngag ston cing // bsod nams kyI mthu bstan par 'gyur ro //
-
- A: rIgs kyI bu de nas // rI rab gyi (v16-1) byang phyogs gyI rtse na //
- B: rigs kyi bu de nas ri rabs byang (15r-6) phyogs rtسا na //
- C: rigs gyi bu khyod de nas ri rab gyi byang phyogs (r2-5) gyi byang phyogs rtse na //
- D: rigs kyI bu gshin khyod de nas (v3-7) ri rab kyi byang <ba> phyogs kyi rtse na //
-
- A: phob brang lcang lo can zhes bya ba' //
- B: phro brang lcang lo can zhes bya ba //
- C: pho brang lcang lo can zhes bya ba na //
- D: pho brang lcang lo can zhes bya ba na //

- A: bcom ltan 'das dpal phyag na (v16-2) rto rje khro bo mang po khor dang // bcas pa
bzhugs ste //
- B: bcom ldan (15v-1) 'das phyag na rtodze / kho bo mang po'i 'khor dang bcas pa'i b
(15v-2) zhugs pa //
- C: bcom ldan 'das dpal phyag na rdo rje 'i khro (r2-6) bo mang po 'i 'khor dang bcas pa
bzhugs bas //
- D: bcom ldan 'das dpal phyag na rdo rje kho (v4-1) bo mang po'i 'khor tang bcas // pa
bzhugs pas //
-
- A: 'dod pa thams cad yId bzhIn du grub par // (v16-3) rIgs gyI bu khyod la dbang bskur
bar 'gyur ro //
- B: 'dod pa thams shad yid bzhin du grub pa (15v-3) // rigs kyi bu khyog da la dbang skur
bar 'gyur ro //
- C: 'dod pa thams cad [---] par [rig]s gyi
- D: bsams dgu yid bzhin du grub par // rigs kyi bu (v4-2) gshin khyod la dbang bskur
bar 'gyur ro
-
- A: de nas rIgs gyI bu khyod la // phyag na rto rje byIn (v16-4) gyI rlabs gyIs //
- B: de nas (15v-4) rigs kyi bu khyod la // dpal phyags na rto dze byin kyi labs (15v-5) kyi
- D: /:/ de nas rigs kyi bu gshin khyod la // dpal phyag na rdo rje 'i byin rlabs (v4-3) kyis
-
- A: song la dga' ltan lha 'I gnas na // sangs rgyas shag kyI thub pa // chos gyI (v17-1) rgyal
tsab //
- B: gsol ba dag lha 'i gnas na // sangs rgyas shag kya thubs (15v-6) pa'i chos kyi rgyal tshab
//
- D: song la //dga' ldan lha'i gnas na // sangs rgyas shag kya thub pa'i chos kyi rgyal mtshan
-
- A: 'pags pa byams pa zhes bya ba //
- B: 'phags pa byams pa'i zhis bya ba
- D: 'pags pa byams (v4-4) pa zhes bya ba //
-
- A: 'khor byang cub sems dpa' ba su myI dra dang // (v17-2) seng 'ge bar snang la stsogs pa
//
- B: (15v-7) // 'khor byang cub sems pa su myi tra dang // ser nge rab sga[I?] (16r-1) las
bstsogs pa //
- D: 'khor byang cub sems dpa' // 'ba' su myi tra dang seng ge bar snang la stsogs pa //

- A: bskal bzang po 'I byang cub sems dpa' / dgu brgya dgu bcu (v17-3) rtsa drug la stsogs pa dang //
- B: bskal pa bzang po'i byang cub sems pa // (16r-2) dgu brgya dgu bcu rtsa drugs la bstogs pa //
- D: bskal (v4-5) pa bzang po 'i byang cub sems dpa' // dgu brgya dgu bcu rtsa drug la stsogs pa dang //
-
- A: lha 'I bu grangs myed pa dang // rin po che 'I gzhal myed khang gyI nang na //
- B: lha 'i bu grangs mye (16r-3) d pa dang // rin po che gzhal myed khang na
- D: lha 'i bu grangs (v4-6) myed pa nga (interline<) rin po che 'i gzhal myed khang na /
-
- A: (v17-4) lha rdzas kyI lhab lhub dang // rol mo sna tshogs gyI long spyod dang ltan ba //
- B: lha rdzas kyI lhab lhab dang / (16r-4) rol mo sna tshogs // chos kyI long spyod
- D: lha rdzas kyI lhab lhub dang rol mo sna tshogs dang (>interline) // chos kyI long spyod zad myi shes pa
-
- A: bsam gyls myI khyab pa las (v18-1) stsogs pa // skyId pa'I rgyu rkyen phun gsum tshogs pa //
- B: bsam kyI myI khyab pa las (16r-5) bstogs pa skyid rgyu rkyen phun sum tshogs pa'i
- D: bsam gyis myI khyab pa la stsogs pa / skyid pa'i rgyu rkyen (v5-1) / phun sum tshogs pa'i //
-
- A: lha yul dam pa der // bde dgu la bag (v18-2) yod par spyod cig //
- B: lha'i yul dam (16r-6) s der // bde dgu la bag yod par spyad cigs //
- D: lha 'i yul dam pa der // gshin khyod bde dgu la bag yod par spyod cig
-
- A: rIgs kyI bu lha 'I long spyod // dga' ba 'ba' shIg gIs chog par ma 'dzIn //
- B: rigs kyis bu (16r-7) longs spyod dga // ba shigs kyis tshogs par ma 'dzin bar //
- D: / (v5-2) rigs kyI bu gshin khyod lha 'i long spyod dga' ba 'ba shig [tshe?] gis chog par ma 'dzin par //
-
- A: (v18-3) bdag dang sems can kun yongs su mye ngan las 'da' par byol⁹⁹ la //
- B: (16v-1) bdag dang sems shan kun kyang yongs su rmyi ngan las 'das (16v-2) bar bgvis la //

⁹⁹ byol: byos.

- D: gshin khyod dang (v5-3) sems can kun yongs kyis mya ngan las 'das pa gyis la //
- A: bsod nams dang ye shes gyI (v18-4) tshogs btsal ba la // myI ngoms pa'I sems zhog
shIg //
- B: bsod nams dang ye shes gyi tshogs (16v-3) btsal ba la // myi myangs pa'i pa sems shan
bzhogs (16v-4) cog ma //
- D: bsod nams dang ye shes kyI tshogs btshal ba la (v5-4) myi ngoms pa'i sems can zhog
shig //
- A: 'dod chags dang bral bar yang thob (v18-5) par gyur shIg //
- B: 'dod chags dang bral ba la yang thobs par gyis (16v-5) shigs //
- D: 'dod chags dang bral bar yang gyis shig /
- A: (v19-1) \$ // de nas gshIn \$ // thams cad mkhyen pa 'I ye shes kyang //
- B: thams shan mkhyen pa'i ye shes kyis btsal (16v-6) bar bgyis shigs //
- D: thams cad mkhyen pa'i ye (v5-5) shes kyang btshal bar gyis shig //
- A: mngon bar shes pa'I [---] (v19-2) la yang mam par sbrul bar gyIs shIg //
- B: mngon bar shes pa'i ye shes la yang (16v-7) mams par 'phrul bar gyis shigs //
- D: mngon bar shes pa'i ye shes la yang mam par 'phruld par gyis shig //
- A: chos gyI dbyIngs la yang ma g.yos shIg //
- B: chos kyis dbyangs (17r-1) la ma yos shigs //
- D: chos (v5-6) kyI dbyings las kyang ma g.yo shig //
- A: byang cub gyI (v19-3) sems bskyed pa la yang ma gdang shIg //
- B: byang cub kyI sems bskyed pa yang (17r-2) ma gtang shigs //
- D: byang cub kyI sems bskyed pa yang ma gtang shig //
- A: de bzhIn gshegs pa 'I mam par 'phrul ba dang //
- B: de bzhin gshegs pa'i mams par phyal (17r-3) ba dang //
- D: de bzhin gshegs / (v6-1) pa'i sprul pa dang
- A: byIn (v19-4) gyI rlabs kyIng yongs su rton cIg //
- B: byin kyI labs kyang yongs su ston cig //

D: byin gyi rlabs kyis kyang gshin khyod la yongs su ston cig //////////////

A: lha yul du lam bstan ba rdzogs so //'^oM////

B:

D:

略号

James Valby: James Valby's Tibetan-English Dictionary, in The Tibetan & Himalayan Library, Tibetan to English Translation Tool,
<http://www.thlib.org/reference/dictionaries/tibetan-dictionary/translate.php>. (参照 2018-11-02) .

Jäschke: Jäschke, Heinrich August (1881) *A Tibetan-English Dictionary*. London: The Charge of the Secretary of State for India in Council.

Rangjung Yeshe: Rangjung Yeshe Tibetan-English Dictionary,
<http://www.rywiki.tsadra.org>. (参照 2018-11-02) .

『藏漢』: 張怡孫・主編(1985)『藏漢大辭典』北京: 民族出版社.

参考文献

Chu Junjie 褚俊傑 (1989) 「吐蕃本教喪葬儀軌研究」 上篇, 『中国藏学』 1989-3, pp.15-34.

—— (1990) 「論苯教喪葬儀軌的仏教化」, 『西藏研究』 1900-1, pp.45-69.

Dotson, Brandon (2013) "The Princess and the Yak: The Hunt as Narrative Trope and Historical Reality in Early Tibet." In Dotson, B., Iwao, K., and Takeuchi, T. (eds.) *Scribes, Texts, and Rituals in Early Tibet and Dunhuang*. Wiesbaden: Dr. Ludwig Reichert Verlag, pp. 61-85.

—— (2016) "The Dead and Their Stories: Preliminary Remarks on the Place of Narrative in Tibetan Religion." *Zentralasiatische Studien* 45, pp.77-112.

Imaeda, Yoshiro 今枝由郎 (1979) "Note préliminaire sur la formule *Om maṇi padme hūm* dans les manuscrits tibétains de Touen-Houang." In Michel Soymié (ed.) *Contributions aux études sur Touen-Houang*. Geneve/Paris: Librairie Droz, pp.71-76.

- (1981) *Histoire du cycle de la naissance et de la mort: Etude d'un texte tibétain de Touen-Houang*. Genève/Paris: Librairie Droz.
- (2006) 『敦煌出土チベット文「生死法物語」の研究』東京: 大東出版社.
- (2007) "The History of the Cycle of Birth and Death: A Tibetan Narrative from Dunhuang." In Kapstein, M., and Dotson, B., (eds), *Contributions to the Cultural History of Early Tibet*. Leiden/Boston: Brill, pp.105-182.
- (2010) "The *Bardo do thos grol*: Tibetan Conversion to Buddhism or Tibetanisation of Buddhism?" In Kapstein, M., and van Schaik, S. (eds.) *Esoteric Buddhism at Dunhuang*. Leiden/Boston: Brill, pp.145-158.
- Imaeda, Yoshiro *et al.* (2007) *Tibetan Documents from Dunhuang*. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
- Ishikawa, Iwao 石川巖 (2007) 「敦煌出土チベット語予言書『衰退期』の宗教史的意義」, 『東方学』第113輯, pp.102-87 (逆頁) .
- (2008) 「古代チベットにおける古代ボン教とその変容」, 『北東アジア研究』, pp.173-185.
- (2009) 「敦煌出土チベット語文献 P.T. 239 表の主題と著作者に関する覚書」, 『東方』第25号, pp.118-130.
- (2010) 「敦煌チベット語文献 P.T. 239 表訳注 —古代チベットにおける前仏教的葬儀とその仏教化に関する—証言—」, 沈衛榮主編『西域歴史言語研究集刊 第三輯』北京: 科学出版社, pp.55-74.
- (2012) "A Note on the Theme and the Author of PT 239 Recto." In Hill, N. (ed.) *Medieval Tibeto-Burman Languages IV*. Leiden: Brill, pp.399-410.
- Kapstein, Matthew (2000) *The Tibetan Assimilation of Buddhism*. Oxford/New York: Oxford University Press.
- Lalou, Marcelle (1938) "A Tun-huang Prelude to the Karaṇḍavyūha." *Indian Historical Quarterly*, XIV, pp.198-200.
- (1949) "Les chemin du mort dans les croyances de Haute-Asie." *Revue de l'histoire des religions*, pp.42-48.
- (1952) "Rituel bon po des funérailles royales." *Journal Asiatique*, CCXL, pp.339-361.
- (1953) "Les textes bouddhiques au temps du roi Khri-sron-lde bcan." *Journal Asiatique*, CCXLI, pp.313-353.
- Li, Fang-Kuei and Coblin, W. S. (1987) *A Study of Early Tibetan Inscriptions*. Taipei: Nankang.

- Macdonald, Ariane (1971) "Une lecture des Pelliot tibétain 1286, 1287, 1038, 1047, et 1290, essai sur la formation et l'emploi des mythes politiques dans la religion royale de Sroñ-bcan sgam-po." In Macdonald, A. (ed.), *Études tibétaines dédiées à la mémoire de Marcelle Lalou*. Paris: Librairie d'Amérique et d'Orient Adrien Maisonneuve, pp.190-391.
- Skorupski, Tadeusz (1983) *Sarvadurgatipariśodhana Tantra: Elimination of All Evil Destinies*. Delhi: Motilal Banarsidass.
- Snellgrove, David (1967) *The Nine Ways of Bon*. London: Oxford University Press.
- Stein, R. A. (1970) "Un Document Ancien Relatif aux Rites Funéraires des Bon-po Tibétains." *Journal Asiatique* tome CCLVII, pp.155-185.
- (1971) "Du récit au rituel dans les manuscrits tibétains de Touen-houang." In Macdonald, A. (ed.), *Études tibétaines dédiées à la mémoire de Marcelle Lalou*. Paris: Librairie d'Amérique et d'Orient Adrien Maisonneuve, pp.479-552.
- van Schaik, Sam (2006) "The Tibetan Avalokiteśvara Cult in the Tenth Century: Evidence from the Dunhuang Manuscripts." In Kapstein, M. and Dotson, B. (eds), *Contributions to the Cultural History of Early Tibet*. Leiden/Boston: Brill, pp.55-72.
- 御牧克己 (2014) 『西蔵仏教宗義研究 第十卷 —トゥカン「一切宗義」「ボン教の章」—』東京: 東洋文庫.
- 山口瑞鳳・編著 (1985) 『講座敦煌 6 敦煌胡語文献』東京: 大東出版社.

Keywords : 古代チベット 敦煌文書 葬送儀礼 仏教史